

総目次

公研セミナー

年	月	氏名	題目
1963年	9月・10月	正田 彬	独禁法と国際競争力
1963年	11月	宮下 武平	新産業秩序と体制金融
1963年	12月	金子 良雄	物価規制について
1964年	1月	大熊 一郎	物価構造について
1964年	2月	滝田 実	物価と賃金
1964年	3月	下村 治	日本経済の成長力
1964年	4月	篠原三代平	転型期の核心を掴む
1964年	5月	鈴木 秀雄	外資流入の姿勢
1964年	6月	向坂 正男	倍増中期手直しの問題点
1964年	7月	中村 孝士	開放体制下の景気循環
1964年	8月	木村禧八郎	長期経済政策への提唱
1964年	9月	神野 正雄	国際流動性と日本経済
1964年	10月	大来佐武郎	世界景気の動向
1964年	11月	磯村 英一	地域開発の方向性
1964年	12月	竹中竜一郎	金融正常化の諸問題点
1965年	1月	坂本二郎・中野拙三	日本の産業集中の実態と方向
1965年	2月	伊藤 長生	「利潤」について
1965年	3月	三木 邦男	国際通貨の展望と日本経済
1965年	4月	鈴木 滋	今後の産業政策と日本経済
1965年	5月	佐橋 治雄	経営について
1965年	6月	前川 憲一	不況の中の財政の方向
1965年	7月	金森 久雄	新経済白書と景気判断
1965年	8月	堀越 禎三	財界は公債をどう考える
1965年	9月	六戸駿太郎	不況後の日本経済の新ビジョン
1965年	10月	湊 守篤	不況後の企業体質をどう考える
1965年	11月	木内 信胤	不安に答える
1965年	12月	大河内一男	景気短期見通し
1966年	1月	小坂徳三郎	マンパワーズと日本経済への要望
1966年	2月	両角 良彦	経済を持って歩こう
1966年	3月	竹内 一郎	今後の産業体制と政府企業間の矛盾
1966年	4月	梶浦 英夫	国際金利の上昇と日本への影響
1966年	5月	井深 大	最近の設備投資の動向
1966年	6月	長	企業における研究開発と経済成長
1967年	1月	西島 芳二	アメリカ経済はどう動く
1967年	2月	内田 忠夫	資本自由化と企業再編成
1967年	3月	北野 重雄	日本経済の新局面と産業政策
1967年	4月	谷村裕・小島英敏	資本自由化と国際競争力
1967年	5月	青葉 輪於	政府と企業
1967年	6月	土屋 清	より大きな発展のために
1967年	7月	鶴見 清彦	政治はどう動く
1967年	8月	宮崎 勇	新しい経済の方向
1967年	9月	田中 角栄	42年度の経済と新経済計画
1967年	10月	大木 穆彦	経済成長と「物価」
1967年	11月	村上孝太郎	資本自由化と「産業体制」
1967年	12月	辻村江太郎	「西欧における産業体制の近代化」について
1968年	1月	堀江 薫雄	ケネディ・ラウンドと日本への影響
1968年	2月	外山 茂	国際収支の赤字と景気動向
1968年	3月	川又 克二	都市再開発の問題点と景気動向
1968年	4月	宮沢 鉄蔵	日本経済外交の姿勢
1968年	5月	橋本 清	財政の新しい方向
1968年	6月	大慈弥嘉久	「硬直化と今後の取組み方」
1968年	7月	翠川 鉄雄	経済成長と労働力
1968年	8月	牛場信彦・田中洋之助	ポンド切り下げの後にくるもの
1968年	9月	池内 得二	こうなる今年の日本経済
1968年	10月	八塚 陽介	ドル防衛と対日投資
1968年	11月	川島 博	米因輸入課徴金の日本への影響と対策
1968年	12月	星登 保夫	ベトナム平和とドルの将来
1969年	1月	北川 一栄	国際競争と企業再編成の方向
1969年	2月	今井 勇	景気動向と締めめ政策の是非
1969年	3月	林 栄夫	日本経済外交の現実と方向
1969年	4月	佐伯 喜一	これからの内外金融の動向
1969年	5月	飯野 匡	物価問題への指針
1969年	6月	江森 盛久	都市問題の焦点
1969年	7月	熊谷 尚夫	社会資本の不足と土地対策
1969年	8月	野田 信夫	設備投資拡大と来年度の景気見通し
1969年	9月	矢野 智雄	情報革新と日本経済
1969年	10月	小倉 武一	ニクソン政権の経済政策
1969年	11月	細見 隆	(対日経済政策を含む)
1969年	12月	伊原 長	
1970年	1月	武田 豊	自己開発について
1970年	2月	牧野 昇	新しい「産業未来図」を描く
1970年	3月	村上 茂利	これからの労働力対策
1970年	4月	内田 藤雄	マルク切上げ後のドイツ経済の問題点とその方向
1970年	5月	後藤 達郎	アメリカの景気後退と日本経済への影響
1970年	6月	松本 俊一	中国問題への認識と展望
1970年	7月	藤井立・八幡輝雄	日中交渉のなから
1970年	8月	徳永 久次	不況は果たしてくるのか
1970年	9月	嘉治 元郎	これからの景気のゆくえ
1970年	10月	芦矢栄之助	環境問題とGNP
1970年	11月	鳩山威一郎	これからの日米関係のゆくえ
1970年	12月	山中 宏	これからの国際金融情勢と円切り上げ
1971年	1月	小島英敏・斉藤倉之助	来年度の財政政策の方向とポイント
1971年	2月	宮崎 弘道	世界的インフレの方向と影響
1971年	3月	下村 治	小島英敏の「71年の景気を占う」
1971年	4月	下河辺 淳	「71年の世界経済はどう動く」
1971年	5月	武者小路公秀・津和義昌	「71年の経済成長率をどうみるか」
1971年	6月	相沢英之・吉田達雄	これからの「立地」をどう進めるか
1971年	7月	内野 達郎	新しい米中関係の展望
1971年	8月	柏木 雄介	高福祉経済において社会資本をどう充実させ得るか
1971年	9月	石川 滋	日本経済の成果と問題点
			黒字累積と円のゆくえ
			中国経済の実力

1971年10月	両角 良彦	日米経済とこれからの産業政策
1971年11月	篠原三代平	日本経済が転換すべき方向
1971年12月	鹿野 義夫	不況の72年の日本、その経済政策はこうなる
1972年1月	竹内一郎・外山弘	こうなる72年の世界経済
1972年2月	山田春・今井勇・長島忠雄	今年の景気はいつ、どこまで回復する
1972年3月	高木文雄・宇田川璋仁	これからの経済運営と税制の方向
1972年4月	林信太郎・渡辺康	多国籍企業の実態と、日本へのこれからの影響
1972年5月	熊谷典文・正田彬	これからの経済運営と独禁法
1972年6月	藤井丙牛・力石定一	高福祉社会と企業
1972年7月	大槻文平・正村公宏	これからの労働問題
1972年8月	中曽根康弘	これからの新しい経済運営
1972年9月	宇沢 弘文	新しい経済
1972年10月	岩佐 凱実	「公共経済学」からのアプローチ
1972年11月	高橋 弘篤	アメリカ・中国・日本
1972年12月	矢野 智雄	長期国土建設の考えかた
1973年1月	館龍一郎・水上達三	73年長期経済計画のすべて
1973年2月	金森久雄・宮崎一雄	対外均衡と対内均衡
1973年3月	井上保・出光計助・間淵直三	これからのエネルギー資源問題を考える
1973年4月	宮崎弘道・清水嘉治	アメリカの世界経済政策
1973年5月	安川七郎・神田延祐	最近の金融問題とその性格
1973年6月	友納武人・富健一	地域社会と企業
1973年7月	梅本純正・酒井正利・北野利信	新しい社会と企業
1973年8月	小島英敏・後藤新一・清田晋亮	インフレ見通しと国民生活
1973年9月	田実 涉	日中通商関係のすめ方
1973年10月	山形 栄治	新しいエネルギー政策の方向
1973年11月	橋口 収	49年度予算の方向とポイント
1973年12月	並木信義・長島忠雄・服部盛栄	エネルギー問題と産業政策
1974年1月	両角良彦・館龍一郎・内野達郎	74年の経済見通し
1974年2月	細見卓・木村禰八郎	74年の国際経済の動向
1975年1月	市川 誠	これからの労働運動の考え方と進め方
1975年2月	小松勇五郎・宮崎勇	エネルギー高価格時代の産業構造
1975年3月	内田忠夫・吉田太郎	インフレと経済政策
1975年4月	高木 文雄	法人税の新しい考え方
1975年5月	鈴木 秀雄	国際通貨問題と世界経済
1975年6月	保利 茂	政党の近代化とその展望
1975年7月	後藤新一・宮崎弘道	「危機」の世界経済を予測する
1975年8月	宮崎 仁	長期的視野にたった新しい経済計画の考え方
1975年9月	竹内 道雄	日本経済の現状と新予算のポイント
1975年10月	中村貢・鳩山威一郎	インフレと公共料金政策
1975年11月	篠原三代平	日本経済の国際的転換点
1975年12月	正田彬・平賀潤二	独禁法改正と日本経済
1976年1月	内野 達郎	75年の日本経済
1976年2月	増田 健二	これからのエネルギー政策
1976年3月	橋本栄一・原 信	これからの日本経済と労働政策
1976年4月	中村貢・鳩山威一郎	フォードの経済政策とドル
1976年5月	篠原三代平	インフレと公共料金政策
1976年6月	宮崎 仁	五十年日本経済の方向
1976年7月	橋口 収	あたらしい国土政策
1976年8月	内山良正・島野卓爾	当面の日本経済の見通しと国際経済
1976年9月	木村 武雄	保守政治の課題と展望
1976年10月	大塩洋一郎	これからの日本経済と公共事業
1976年11月	辻敬一・岩崎隆	五十一年度の日本経済と財政
1976年12月	稲村 光一	76年世界経済の見通し
1977年1月	金森 久雄	76年の景気動向
1977年2月	尾本 信平	これからの企業経営と備蓄問題
1977年3月	宇都宮徳馬	民主政治の崩壊とその再建
1977年4月	小島 英敏	日本経済と物価問題
1977年5月	増田 実	エネルギー政策の基本方向
1977年6月	下河辺淳・小谷善四郎	国土利用の現状と長期政策
1977年7月	天谷 直弘	構造危機と日本の産業政策
1977年8月	河野 謙三	民主政治の危機を打開するため
1977年9月	富塚 三夫	これからの労使関係の方向
1977年10月	藤岡真佐夫	「田問題」と日本経済
1977年11月	吉瀬 維哉	五十二年度予算のポイント
1977年12月	馬場 正雄	77年日本経済の課題
1978年1月	倉成 正	これからの経済運営のポイント
1978年2月	堀 昌雄	野党が診断する日本経済
1978年3月	木村 俊夫	世界経済の動向と外交政策の課題
1978年4月	松野 頼三	民主政治の危機と再生
1978年5月	橋本 利一	エネルギーをめぐる内外情勢と課題
1978年6月	岩田幸基・田島敏弘	設備投資の動向と景気見通し
1978年7月	石田博英・細野正	安定成長と雇用
1978年8月	濃野 滋	安定成長下の産業政策
1978年9月	増田 実	国際環境の変化と通商政策
1978年10月	太田 薫	政治体質の改善と国民生活
1978年11月	長岡 実	来年度予算と財政政策のポイント
1978年12月	佐々木 直	日本経済の現状と見通し
1979年1月	麻生 良方	78年国民生活と政治の使命
1979年2月	中村 隆英	日本経済の成長力と内外バランス
1979年3月	細見 卓	円高と世界経済の見通し
1979年4月	藤岡真佐夫	景気回復の基調をさぐる
1979年5月	藤岡真佐夫	アメリカ経済と日本の対応
1979年6月	下河辺淳	国土開発の現状と将来
1979年7月	河本 敏夫	景気見通しと経済運営
1979年8月	小坂善太郎	日中条約と内政・外交の課題
1979年9月	矢野俊比古	八十年代ビジョンと産業政策
1979年10月	岩田幸基・小島正興	国際収支動向と景気見通し
1979年11月	長岡 実	五十四年度予算と財政再建
1979年12月	天谷 直弘	エネルギー政策の課題
1980年1月	喜多村治雄	「新経済社会七カ年計画」のポイント
1980年2月	稲山 嘉寛	八十年代経済の現状と将来
1980年3月	宮田 義二	八十年代労働運動の課題と動向
1980年4月	細見 卓	世界経済見通しと通貨通商問題
1980年5月	牛場 信彦	国際協調と日本の役割
1980年6月	佐々木孝男	新経済環境下の成長と物価
1980年7月	宮崎 弘道	八十年代の世界経済と日本外交の指針
1980年8月	岩田 式夫	これからの経営のポイントと理念
1980年9月	小島英敏・中林貞男	インフレ要因と国民生活
1980年10月	武貞岩夫・新飯田宏	スロウダウンするアメリカ経済と国際通貨
1980年11月	金森 久雄	五十五年の日本経済とその活力
1980年12月	江崎 真澄	対外経済問題と政局
1981年1月	久松 義一	日本経済の中期展望
1981年2月	高秀 秀信	スロウダウンにどう対応するか
1981年3月	諸井 虔	これからの公共事業と民間活力
1981年4月	星野 進保	経営の創造
1981年5月	國廣 道彦	21世紀へ向けての国土開発と四全総
1981年6月	小粥 正巳	86年のアメリカ経済と日本の経済外交
1981年7月	谷村 昭一	61年度予算のポイント
1981年8月	宮崎 弘道	61年の経済見通しと政策
1981年9月	野々内 隆	ヨーロッパの経済動向と日米欧関係
1981年10月	渡辺 喜一	石油価格の動向とエネルギー政策
1981年11月	香西 泰・水谷 研治	最近の金融情勢と通貨
1981年12月	岩田 式夫	私の経済観 ―企業をとりまく環境と税制改革
1982年1月	福川 伸次	経済構造をめぐる構想と対応策
1982年2月	H・コータツツイ	日英関係の回顧と将来
1982年3月	大竹 宏繁	景気の状態と政策のポイント
1982年4月	大場 智満	国際金融・通貨情勢とアメリカ経済
1982年5月	石川 六郎	大都市問題と民間活力
1982年6月	G・フィールズ	国際経済環境と転機にたつ日本の経営
1982年7月	角谷 正彦	六十二年度予算のポイント
1982年8月	飯田庸太郎	これからの日本経済と企業経営
1982年9月	池田 迪彦	「重厚長大産業」の未来
1982年10月	細見 卓	内外経済情勢と経済外交の課題
1982年11月	井上 章平	構造調整と通貨見直し
1982年12月	吉富 勝	建設行政の長期展望
1983年1月	那須 翔	21世紀へ向けての企業経営の展開
1983年2月	大河原良雄	これからの日米外交の課題
1983年3月	濱岡 平一	最近のエネルギー情勢と政策のポイント
1983年4月	尾崎 護	税制改革の視点と間接税
1983年5月	武田 豊	鉄鋼業の展望と日本経済
1983年6月	西垣 昭	六十三年度予算のポイント
1983年7月	高木 文雄	これからの都市再開発を考える
1983年8月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1983年9月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1983年10月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1983年11月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1983年12月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1984年1月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1984年2月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1984年3月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1984年4月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1984年5月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1984年6月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1984年7月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1984年8月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1984年9月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1984年10月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1984年11月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1984年12月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1985年1月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1985年2月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1985年3月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1985年4月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1985年5月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1985年6月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1985年7月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1985年8月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1985年9月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1985年10月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1985年11月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1985年12月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1986年1月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1986年2月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1986年3月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1986年4月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1986年5月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1986年6月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1986年7月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1986年8月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1986年9月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1986年10月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1986年11月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1986年12月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1987年1月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1987年2月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1987年3月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1987年4月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1987年5月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1987年6月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1987年7月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1987年8月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1987年9月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1987年10月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1987年11月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1987年12月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1988年1月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1988年2月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1988年3月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1988年4月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1988年5月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1988年6月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1988年7月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1988年8月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1988年9月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1988年10月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1988年11月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1988年12月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1989年1月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1989年2月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1989年3月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1989年4月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1989年5月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1989年6月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1989年7月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1989年8月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1989年9月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1989年10月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1989年11月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1989年12月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1990年1月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1990年2月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1990年3月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1990年4月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1990年5月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1990年6月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1990年7月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1990年8月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1990年9月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1990年10月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1990年11月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1990年12月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1991年1月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1991年2月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1991年3月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1991年4月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1991年5月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1991年6月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1991年7月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1991年8月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1991年9月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1991年10月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1991年11月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1991年12月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1992年1月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1992年2月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1992年3月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1992年4月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1992年5月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1992年6月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1992年7月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1992年8月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1992年9月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1992年10月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1992年11月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1992年12月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1993年1月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1993年2月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1993年3月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1993年4月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1993年5月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1993年6月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1993年7月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1993年8月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1993年9月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1993年10月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1993年11月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1993年12月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1994年1月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1994年2月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1994年3月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1994年4月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1994年5月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1994年6月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1994年7月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1994年8月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1994年9月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1994年10月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1994年11月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1994年12月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1995年1月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1995年2月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1995年3月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1995年4月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1995年5月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい
1995年6月	高木 文雄	「街づくり」はお任せ下さい

1988年4月	赤羽 隆夫	六十三年の景気見直し―シャロキアン景気探偵はこうみる
5月	高橋 進	建設行政の諸問題
6月	黒田眞／J・C・アベグレン	―市場参入問題を含めて
7月	星野 進保	日米通商摩擦の行方
8月	牛尾 治朗	経済運営五カ年計画のポイント
9月	岡崎 久彦	国際化時代の企業経営
10月	鎌田 吉郎	日米関係の再構築と外交課題
11月	J・ホワイトヘッド	これからのエネルギー政策と原子力
12月	黒沢 洋	これからの日欧関係を考える―EC統合問題を含めて
1989年1月	佐藤 嘉恭	内外金融情勢と景気見直し
2月	篠沢 恭助	89年のアメリカ経済と日米関係
3月	進藤 貞和	平成元年度予算のポイント
4月	杉山 弘	二十一世紀へ向けての企業活性化と人材活用
5月	J・キャッシュマン	内外経済動向と通商政策
6月	亀井 正夫	欧州への企業進出と投資摩擦
7月	A・ファンアフト	政治・経済・社会改革の指針
8月	水谷研治・吉田春樹	92 EC 統合と日・EC 関係
9月	内海 孚	最近の産業動向と景気見直し
10月	田川誠一・菅直人	―好調景気の転換点をさぐる
11月	山本 雅司	内外金融情勢と通貨
12月	佐波 正一	―国民の審判にどう応える
1990年1月	田中 努	エネルギーの長期需給見直しと原子力
2月	寺村 信行	国際化時代の企業戦略
3月	西廣 整輝	内外経済動向と日本経済の展望
4月	春名 和雄	平成二年度予算のポイント
5月	西澤 潤一	冷戦構造の変容と日本の防衛情勢
6月	L・A・チジョン	急展開する国際情勢と日本の役割
7月	細川 恒	―東・西社会主義国の変革の中で
8月	T・F・ジョルダン	東京一極集中と地域活性化
9月	加藤 紘一	日米構造協議とこれからの通商政策
10月	船田 元	
11月	藤井 治芳	
12月	清家 篤	
1995年1月	土志田征一	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン
2月	武藤 敏郎	平成七年度予算のポイント
3月	武富 将	今回の不況が教えるもの
4月	行天 豊雄	九五年の世界経済と金融・通貨情勢
5月	西澤 潤一	技術立国日本の将来
6月	L・A・チジョン	ロシアの現状とロ日関係
7月	細川 恒	WTO 体制下の通商政策と日米関係
8月	T・F・ジョルダン	米ビジネススマンが見た日本経済
9月	加藤 紘一	・日本企業
10月	船田 元	これからの政局と政策課題
11月	藤井 治芳	政局の焦点と政治課題
12月	清家 篤	公共事業「新五カ年計画」と都市づくりのビジョン
1996年1月	土志田征一	高齢化時代の雇用・賃金
2月	林 正和	―新しい経済社会システムを考える
3月	赤羽 隆夫	新経済計画のポイント
4月	江崎 格	平成八年度予算と財政の現状
5月	椎名 武雄	景気の方角を探る
6月	牧野 力	これからのエネルギー政策と原子力
7月	栗山 尚一	経済の再活性化に向けて
8月	鳩山由紀夫	21世紀に向けた産業政策と構造改革
9月	諸井 虔	これからの日米関係と外交の課題
10月	隅谷三喜男	新しい政治潮流の創造に向けて
11月	糠谷 真平	規制緩和・地方分権をどう推進する
12月	三田 勝茂	高齢化時代をどう生きる
1997年1月	江尻宏一郎	景気の減速はあるか
2月	溝口善兵衛	―これからの日本経済を展望する
3月	荒木 浩	21世紀に向けての企業経営
4月	渡辺 利夫	今後の自由主義経済の展望
5月	伴 襄	平成九年度予算と財政の現状
6月	高橋 進	21世紀の日本の経済社会と電気事業
7月	黒田眞／J・C・アベグレン	東アジア経済の新潮流を読む
8月	星野 進保	公共事業のあり方と建設行政
9月	牛尾 治朗	
10月	岡崎 久彦	
11月	鎌田 吉郎	
12月	J・ホワイトヘッド	
1998年1月	黒田眞／J・C・アベグレン	六十三年の景気見直し―シャロキアン景気探偵はこうみる
2月	佐藤 嘉恭	建設行政の諸問題
3月	篠沢 恭助	―市場参入問題を含めて
4月	進藤 貞和	日米通商摩擦の行方
5月	杉山 弘	経済運営五カ年計画のポイント
6月	J・キャッシュマン	国際化時代の企業経営
7月	亀井 正夫	欧州への企業進出と投資摩擦
8月	A・ファンアフト	政治・経済・社会改革の指針
9月	水谷研治・吉田春樹	92 EC 統合と日・EC 関係
10月	内海 孚	最近の産業動向と景気見直し
11月	田川誠一・菅直人	―好調景気の転換点をさぐる
12月	山本 雅司	内外金融情勢と通貨
1999年1月	田中 努	エネルギーの長期需給見直しと原子力
2月	寺村 信行	国際化時代の企業戦略
3月	西廣 整輝	内外経済動向と日本経済の展望
4月	春名 和雄	平成二年度予算のポイント
5月	西澤 潤一	冷戦構造の変容と日本の防衛情勢
6月	L・A・チジョン	急展開する国際情勢と日本の役割
7月	細川 恒	―東・西社会主義国の変革の中で
8月	T・F・ジョルダン	東京一極集中と地域活性化
9月	加藤 紘一	日米構造協議とこれからの通商政策
10月	船田 元	
11月	藤井 治芳	
12月	清家 篤	
2000年1月	土志田征一	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン
2月	武藤 敏郎	平成七年度予算のポイント
3月	武富 将	今回の不況が教えるもの
4月	行天 豊雄	九五年の世界経済と金融・通貨情勢
5月	西澤 潤一	技術立国日本の将来
6月	L・A・チジョン	ロシアの現状とロ日関係
7月	細川 恒	WTO 体制下の通商政策と日米関係
8月	T・F・ジョルダン	米ビジネススマンが見た日本経済
9月	加藤 紘一	・日本企業
10月	船田 元	これからの政局と政策課題
11月	藤井 治芳	政局の焦点と政治課題
12月	清家 篤	公共事業「新五カ年計画」と都市づくりのビジョン
2000年2月	武藤 敏郎	平成七年度予算のポイント
3月	武富 将	今回の不況が教えるもの
4月	行天 豊雄	九五年の世界経済と金融・通貨情勢
5月	西澤 潤一	技術立国日本の将来
6月	L・A・チジョン	ロシアの現状とロ日関係
7月	細川 恒	WTO 体制下の通商政策と日米関係
8月	T・F・ジョルダン	米ビジネススマンが見た日本経済
9月	加藤 紘一	・日本企業
10月	船田 元	これからの政局と政策課題
11月	藤井 治芳	政局の焦点と政治課題
12月	清家 篤	公共事業「新五カ年計画」と都市づくりのビジョン
2001年1月	土志田征一	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン
2月	武藤 敏郎	平成七年度予算のポイント
3月	武富 将	今回の不況が教えるもの
4月	行天 豊雄	九五年の世界経済と金融・通貨情勢
5月	西澤 潤一	技術立国日本の将来
6月	L・A・チジョン	ロシアの現状とロ日関係
7月	細川 恒	WTO 体制下の通商政策と日米関係
8月	T・F・ジョルダン	米ビジネススマンが見た日本経済
9月	加藤 紘一	・日本企業
10月	船田 元	これからの政局と政策課題
11月	藤井 治芳	政局の焦点と政治課題
12月	清家 篤	公共事業「新五カ年計画」と都市づくりのビジョン
2002年1月	土志田征一	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン
2月	武藤 敏郎	平成七年度予算のポイント
3月	武富 将	今回の不況が教えるもの
4月	行天 豊雄	九五年の世界経済と金融・通貨情勢
5月	西澤 潤一	技術立国日本の将来
6月	L・A・チジョン	ロシアの現状とロ日関係
7月	細川 恒	WTO 体制下の通商政策と日米関係
8月	T・F・ジョルダン	米ビジネススマンが見た日本経済
9月	加藤 紘一	・日本企業
10月	船田 元	これからの政局と政策課題
11月	藤井 治芳	政局の焦点と政治課題
12月	清家 篤	公共事業「新五カ年計画」と都市づくりのビジョン
2003年1月	土志田征一	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン
2月	武藤 敏郎	平成七年度予算のポイント
3月	武富 将	今回の不況が教えるもの
4月	行天 豊雄	九五年の世界経済と金融・通貨情勢
5月	西澤 潤一	技術立国日本の将来
6月	L・A・チジョン	ロシアの現状とロ日関係
7月	細川 恒	WTO 体制下の通商政策と日米関係
8月	T・F・ジョルダン	米ビジネススマンが見た日本経済
9月	加藤 紘一	・日本企業
10月	船田 元	これからの政局と政策課題
11月	藤井 治芳	政局の焦点と政治課題
12月	清家 篤	公共事業「新五カ年計画」と都市づくりのビジョン

2017年5月	白石 隆	トランプ時代の外交政策 ―アジア太平洋地域を中心に 地域に根ざす経営 ―東日本大震災を乗り越えて― 国際金融情勢と世界経済のゆ くえ
6月	海輪 誠	
7月	浅川 雅嗣	欧州複合危機とその世界的含意 LNGの今後とJERAの役割 安倍長期政権の行方 ―日本周辺で何が起こっている か？
8月	遠藤 乾	野生の思考と未来の人材育成 習近平時代の中国を読む 地球と共存する経営
9月	垣見 祐二	
10月	加藤 清隆	
11月	山極 壽一	
12月	川島 真	
2018年1月	小林 喜光	
2月	大鹿 行宏	平成30年度予算のポイントと財 政の課題
3月	中山 俊宏	トランプ政権1年、異形の大統 領の内政と外交
4月	柳瀬 唯夫	最近の通商政策と今後の方向性 〔H20〕30 脱炭素化で変革を迫 られるエネルギー産業と電気事 業の将来像
5月	岡本 浩	日本の進むべき道 ―エネルギー・環境政策を中心 として
6月	森 英介	
7月	平岩 俊司	米朝会談後の北朝鮮情勢 日本経済の新しい姿
8月	加藤 出	―キヤッシュレス・フィンテック・ 超量的緩和の行方 オートファジー研究から見えて きた生命像
9月	大隅 良典	政治主導と安全保障政策 米中貿易戦争の行方 我が国を取り巻く現状と海上保 安庁の対応
10月	兼原 信克	
11月	津上 俊哉	
12月	岩並 秀一	
2019年1月	小野寺五典	日本を取り巻く安全保障環境 平成31年度予算と財政のポイ ント
2月	阪田 渉	
3月	姉川 尚史	EV（電気自動車）を取り巻く 環境と展望
4月	竹内 芳明	5G/IoT時代のサイバーセ キュリティ政策
5月	竹村公太郎	日本文明と災害とエネルギー ―水力発電の底力
6月	岸田 文雄	当面の政策課題について
7月	渡辺 努	技術革新と経済停滞のパラドッ クス
8月	宮家 邦彦	中東情勢に関する五つの神話 ブロックチェーンとエネルギー の将来
9月	阿部 力也	
10月	村上 龍男	―分散型再エネと配電網の自由 化をめざして 夕日を釣り上げた男
11月	広瀬 直	―クワゲ館長の経営哲学 日本の通商政策の現状と戦略 ポビュリズムは民主主義の新た なる展開なのか
12月	水島 治郎	みらいを、つかめ ―2020年以降の日本
2020年1月	野田 聖子	令和2年度予算のポイントと財 政の現状
2月	角田 隆	長期サイクル論から読み解く世 界像
3月	嶋中 雄二	―2050年の経済覇権
4―6月	吉崎 達彦	※新型コロナウイルス感染症対応のため中止 アフターコロナの世界と日本 多国籍主義の危機
7月	高見澤将林	―世界の安全保障環境はどう変 化するか これから予想される大規模災害 と企業のレジリエンス
8月	田中 淳	実証ミクロ経済学が取り組む 経営現場のデータ分析 菅政権の展望と課題
9月	渡辺 安虎	ウイズ・コロナの国際情勢と日 本外交
10月	清水 真人	これからの送配電事業運営 ―地域経営を軸としたモードチ ェンジ
11月	谷内正太郎	令和3年度予算のポイントと当 面の財政運営
12月	金子 禎則	21世紀の防災・減災を支える社 会インフラのありよう バイデン新政権の展望と「自由で 開かれたインド太平洋」の実現 渋沢栄一に学ぶ ―共生の思想と実践 DXの罨
2021年1月	宇波 弘貴	―なぜ戦略だけではうまくいか ないのか？ DX×三つのPで乗 り切る未来
2月	中島 正愛	
3月	市川 恵一	
4月	市川 謙三	
5月	木村 昌人	
6月	福原 正大	
7月	三宅 正一	『走馬燈』の絵のように…… ―地主の子から農民運動へ 大。ロマンチスト。たれ 池。の中で鯨をもたせた。 大雪の朝故郷をあとに。 ―有限の命を。三昧教。で生きる 死んだら寝られる、生きてるう ちに…… 『ノー！』と言える男になろう 心。に故郷をもとら 原爆の炎の下から 口。に塩を突っこまれて ―ある政党政治家の履歴 十年きざみの風雪の中を 涙のある人を尊敬する 青年に注目している ―私の労働運動史とこれから 宇宙ととりくんで七十年 ―十億分の一秒まで計算できる ようになつた 『自ら持つにしかず』 ―東大出の村長からスタートし た私の政治生活 ストライキ・紅燈の巷・行動的 人生
8月	寺尾 一郎	
9月	宮脇 朝男	
10月	宮脇 謙三	
11月	河野 謙三	
12月	越後 正一	
1970年3月	牧田興一郎	ことういう。きたえられ方。 ―マイ・カンパニーのすすめ 仕事のできる男は家ではよわい 素手でも日本を守る ―上役。をつかって仕事をしよう 風が吹いたら帆をあげよ 平凡だから順調に育つた もつとも効率のあるものがそれ をやれ 大事は軽く、小事は重く ―いばる奴は大きらいです 『運命』の流れの中に 驚くな、あわてるな、怒るな 遠く飛ばんことを思う 自分を追いつめ、追いつめる 『正論』を実行しよう オポチュニストほど採算があわ ない人生はない 流星の間に全力を集中せよ！ リーダーは汗みどろで献身せよ 心の遺産を残そう ―古人刻苦必ず盛大なり 『きかん坊』が修養つんで四十年 ―誠意なき人間社会は認めない 『マイペース』で歩いた七十年 いい古いものは常に新しい ―人間に対する愛情の深い人が 好き ひとの身になつて考える ―嘘をつかないゴヘイダ ノーダン・フルベイスで守る ―そこからファイトが湧く 『経営はこれ統帥なり』 大衆のなかに生きる 『おしめの下をくぐれ』―常に 大衆と接触することが大切 仕事を一心にやり、仕事を楽し む 『信じたらそこへゆけ、真似は するな』 新しい軌道を君たちが敷け
4月	寺尾 一郎	
5月	黒田 了一	
6月	市川 謙三	
7月	宮地 政司	
8月	赤城 宗徳	
9月	藤井 丙午	
10月	宇都宮徳馬	
11月	飛鳥田一雄	
12月	瀬長亀次郎	
1974年1月	川瀬 一貫	
2月	両角 良彦	
3月	橋本 栄一	
4月	高川 秀格	
5月	丸木 位里	
6月	小川 栄一	
7月	守屋 学治	
8月	中島 健蔵	
9月	森 八三一	
10月	佐々木更三	
11月	岩佐 凱実	夢を追って二十年走りつづけた ―敗戦の涙の中から日本復興を 念つて 或る政治家の歩いた道 『米騒動』から戦後まで 人生の滋養を摂取する 『習つておぼえていいものを作れ』 ―毎日三時間現場にもぐりこん だ青春 『作曲』にひかれ。『魚』にひか れ七十年 生き残る組織 ―我執をもちつつ日々精進する 大衆の幸せを希つて五十年 ―刑務所で勉強して弁護士に 『有る不尽の意志』―目いっぱい いやるな、ゆとりを持って 直視する ―そして冷静に判断する いわれなき差別の中から真実を 戦後三十年の労働史の中を歩く 人生の道標書 歎異抄と聖書 ―みんなの俸せを念頭に生きる 『人間社会』の在る場所を見つ けよう 18ホールと洗面所 ―一打うて ばそれが人生のスタートだ ―私は65人の日本兵を救つた 一番大事なこととはやめないことだ 下町に演劇の火をともしつづけて 昆虫に継ぎ木をする 『トラさん』の人生目録 ―吉田 さんとの。ケンカ伝説。はウソ 入社したときから社長になるつ もりだった 人間に。くず。はいない ―ある教育者の半生 『真実一路』六十六年 ―社会主義・弁護士。そして知事 『なんとかなるさ』の哲学 ―雲水から事業の世界へ 野次馬一代 ―自分をひやかす もう一人の自分 或る異邦人の記録
11月	橋本 栄一	
12月	高川 秀格	
1975年1月	鈴木 治雄	
2月	真藤 恒	
3月	末広 恭雄	
4月	植田 久生	
5月	林 百郎	
6月	和歌森太郎	
7月	平井富三郎	
8月	金 達 寿	
9月	大木 正吾	
10月	保利 茂	
11月	家永 三郎	
12月	高木 文雄	
1976年1月	中村 寅吉	
2月	須丹礼アーネスト	
3月	矢野健太郎	
4月	清田 篤市	
5月	古川 晴男	
6月	蜷川 虎三	
7月	田部文一郎	
8月	金沢 嘉市	
9月	畑 和	
10月	宮崎 輝	
11月	横山 隆一	
12月	鄭 敬謨	
1977年1月	岩佐 凱実	
2月	船田 中	
3月	鈴木 治雄	
4月	真藤 恒	
5月	末広 恭雄	
6月	植田 久生	
7月	林 百郎	
8月	和歌森太郎	
9月	平井富三郎	
10月	金 達 寿	
11月	大木 正吾	
12月	保利 茂	
1978年1月	家永 三郎	
2月	高木 文雄	
3月	中村 寅吉	
4月	須丹礼アーネスト	
5月	矢野健太郎	
6月	清田 篤市	
7月	古川 晴男	
8月	蜷川 虎三	
9月	田部文一郎	
10月	金沢 嘉市	
11月	畑 和	
12月	宮崎 輝	
1979年1月	横山 隆一	
2月	鄭 敬謨	
3月	岩佐 凱実	
4月	船田 中	
5月	鈴木 治雄	
6月	真藤 恒	
7月	末広 恭雄	
8月	植田 久生	
9月	林 百郎	
10月	和歌森太郎	
11月	平井富三郎	
12月	金 達 寿	
1980年1月	大木 正吾	
2月	保利 茂	
3月	家永 三郎	
4月	高木 文雄	
5月	中村 寅吉	
6月	須丹礼アーネスト	
7月	矢野健太郎	
8月	清田 篤市	
9月	古川 晴男	
10月	蜷川 虎三	
11月	田部文一郎	
12月	金沢 嘉市	
1981年1月	畑 和	
2月	宮崎 輝	
3月	横山 隆一	
4月	鄭 敬謨	
5月	岩佐 凱実	
6月	船田 中	
7月	鈴木 治雄	
8月	真藤 恒	
9月	末広 恭雄	
10月	植田 久生	
11月	林 百郎	
12月	和歌森太郎	
1982年1月	平井富三郎	
2月	金 達 寿	
3月	大木 正吾	
4月	保利 茂	
5月	家永 三郎	
6月	高木 文雄	
7月	中村 寅吉	
8月	須丹礼アーネスト	
9月	矢野健太郎	
10月	清田 篤市	
11月	古川 晴男	
12月	蜷川 虎三	
1983年1月	田部文一郎	
2月	金沢 嘉市	
3月	畑 和	
4月	宮崎 輝	
5月	横山 隆一	
6月	鄭 敬謨	
7月	岩佐 凱実	
8月	船田 中	
9月	鈴木 治雄	
10月	真藤 恒	
11月	末広 恭雄	
12月	植田 久生	
1984年1月	林 百郎	
2月	和歌森太郎	
3月	平井富三郎	
4月	金 達 寿	
5月	大木 正吾	
6月	保利 茂	
7月	家永 三郎	
8月	高木 文雄	
9月	中村 寅吉	
10月	須丹礼アーネスト	
11月	矢野健太郎	
12月	清田 篤市	
1985年1月	古川 晴男	
2月	蜷川 虎三	
3月	田部文一郎	
4月	金沢 嘉市	
5月	畑 和	
6月	宮崎 輝	
7月	横山 隆一	
8月	鄭 敬謨	
9月	岩佐 凱実	
10月	船田 中	
11月	鈴木 治雄	
12月	真藤 恒	
1986年1月	末広 恭雄	
2月	植田 久生	
3月	林 百郎	
4月	和歌森太郎	
5月	平井富三郎	
6月	金 達 寿	
7月	大木 正吾	
8月	保利 茂	
9月	家永 三郎	
10月	高木 文雄	
11月	中村 寅吉	
12月	須丹礼アーネスト	
1987年1月	矢野健太郎	
2月	清田 篤市	
3月	古川 晴男	
4月	蜷川 虎三	
5月	田部文一郎	
6月	金沢 嘉市	
7月	畑 和	
8月	宮崎 輝	
9月	横山 隆一	
10月	鄭 敬謨	
11月	岩佐 凱実	
12月	船田 中	
1988年1月	鈴木 治雄	
2月	真藤 恒	
3月	末広 恭雄	
4月	植田 久生	
5月	林 百郎	
6月	和歌森太郎	
7月	平井富三郎	
8月	金 達 寿	
9月	大木 正吾	
10月	保利 茂	
11月	家永 三郎	
12月	高木 文雄	
1989年1月	中村 寅吉	
2月	須丹礼アーネスト	
3月	矢野健太郎	
4月	清田 篤市	
5月	古川 晴男	
6月	蜷川 虎三	
7月	田部文一郎	
8月	金沢 嘉市	
9月	畑 和	
10月	宮崎 輝	
11月	横山 隆一	
12月	鄭 敬謨	
1990年1月	岩佐 凱実	
2月	船田 中	
3月	鈴木 治雄	
4月	真藤 恒	
5月	末広 恭雄	
6月	植田 久生	
7月	林 百郎	
8月	和歌森太郎	
9月	平井富三郎	
10月	金 達 寿	
11月	大木 正吾	
12月	保利 茂	
1991年1月	家永 三郎	
2月	高木 文雄	
3月	中村 寅吉	
4月	須丹礼アーネスト	
5月	矢野健太郎	
6月	清田 篤市	
7月	古川 晴男	
8月	蜷川 虎三	
9月	田部文一郎	
10月	金沢 嘉市	
11月	畑 和	
12月	宮崎 輝	
1992年1月	横山 隆一	
2月	鄭 敬謨	
3月	岩佐 凱実	
4月	船田 中	
5月	鈴木 治雄	
6月	真藤 恒	
7月	末広 恭雄	
8月	植田 久生	
9月	林 百郎	
10月	和歌森太郎	
11月	平井富三郎	
12月	金 達 寿	
1993年1月	大木 正吾	
2月	保利 茂	
3月	家永 三郎	
4月	高木 文雄	
5月	中村 寅吉	
6月	須丹礼アーネスト	
7月	矢野健太郎	
8月	清田 篤市	
9月	古川 晴男	
10月	蜷川 虎三	
11月	田部文一郎	
12月	金沢 嘉市	
1994年1月	畑 和	
2月	宮崎 輝	
3月	横山 隆一	
4月	鄭 敬謨	
5月	岩佐 凱実	
6月	船田 中	
7月	鈴木 治雄	
8月	真藤 恒	
9月	末広 恭雄	
10月	植田 久生	
11月	林 百郎	
12月	和歌森太郎	
1995年1月	平井富三郎	
2月	金 達 寿	
3月	大木 正吾	
4月	保利 茂	
5月	家永 三郎	
6月	高木 文雄	
7月	中村 寅吉	
8月	須丹礼アーネスト	
9月	矢野健太郎	
10月	清田 篤市	
11月	古川 晴男	
12月	蜷川 虎三	
1996年1月	田部文一郎	
2月	金沢 嘉市	
3月	畑 和	
4月	宮崎 輝	
5月	横山 隆一	
6月	鄭 敬謨	
7月	岩佐 凱実	
8月	船田 中	
9月	鈴木 治雄	

1977年1月	若月 俊一	或る農村医師が歩いた 「センチメンタル・ヒューマニズ ムの半生」 ―山谷、どんな人間も死んでは いけない
2月	楢取 正彦	煩悩の東京シユバイツァー伝 ―六人の現代日本批判
3月	ヨゼフ・ピタウ	神父ピタウの半生 ―戦後三十年のニッポン史断面 トモさんの現代日本批判
4月	三笠宮寛仁	或る勝負師 ―正徳・利用・厚生的人生
5月	呉 清源	―正徳・利用・厚生的人生 ―卓弥呼喚壁幻想
6月	平山 郁夫	―シルクロード巡歴から高松塚 壁画模写へ
7月	河井信太郎	或る検察官の記録
8月	楨枝 元文	教育の責任は永劫に消えない
9月	リツカルド・アマディ	さまよえる或るイタ リア人の日本紀行
10月	市川 房枝	六十年の道標
11月	佐々 学	―女性解放を闘いつづけて ヘンとツツガムシ
12月	向坂 逸郎	―風土病のルーツを追って 弱虫一代
1978年1月	荒松清十郎	秩父二千年の血が流った道 ―相場師、織屋そして政治家 いつでもほんとうのことを言え る目を
2月	伏見 康治	―戦争に役立たなかつ た一物理学者の半生
3月	永野 重雄	盆栽は巨木になれない ―柔と鉄を背負って生きる
4月	永井 道雄	―和して同じからず、の記 ―文相、記者、日教組からみた 実践教育の記録
5月	藤沢 秀行	―盤上に芸とロマンを描いて 翔べ！竹とんぼ
6月	宮田 義二	―私の労働運動30年史 私はこれからこう生きる
7月	太田 薫	―革 新都政のビジョン エトセトラ ―ノミとカナヅチ
8月	伊藤 三郎	―或る自治体リーダー実践録 ―仕事はウンをつけな い
9月	三遊亭圓生	―漱石に教えられた、笑い ―ナードリーチの奨めで益子へ
10月	ゲルト・クナツパー	―土、修行異人伝
1982年3月	小林 大祐	―挑戦の哲学、オイ、やってみろ！ ―首都防衛システムからコンピ ューターへ
4月	武藤 山治	―心の大尽になれ、の母の声を 胸に生きる
5月	関本 忠弘	―池田勇人の、成 長率日本一、と言われた男の話 ―不安を抑えて奪いとれ
6月	田中 勇	―ブラン・ドウ・シーのチャ レンジ人生 ―悔しかったら仕事しろ
7月	末永聡一郎	―学校 創設以来の悪童の、型破り人生 ―「武蔵」を超える
8月	西堀栄三郎	―エジソンになろうとした少年 ―「武蔵」を超える
9月	稲葉 修	―「武蔵」を超える
10月	阿部 栄夫	―私は、我慢、する
11月	井植 薫	―幻の五輪 選手が挑む、トータル経営術 ―六文字、の王道を往く
12月	本山 政雄	―ぜ・しからば、で師を超える 私是不器用に生きた、
1983年1月	桜内 義雄	―「モ トヤマ」流市政の前身と値うち ―首尾一貫する、の道理
2月	大堀 弘	―政 界四十三年、宝塚五十年の足跡 わが反逆の実践録
3月	金田一春彦	―「先見」 日本語游々の記
4月	八尋 俊邦	―啄木は私の 母を困らせたわいの歌人 ―「昼行燈」の、土魂蘭才
5月	進藤 貞和	―「匠」を育てる ―自ら学び、自ら動け、の修行伝
6月	熊谷 典文	―「野党連合」で柔道部に勝つ た六高時代
7月	藤堂 明保	―大陸流転の果てに、
8月	石川 六郎	―和乎工 作から漢字の、親子、発見まで ―もう一人の自分、はごまかせ ない
9月	植田 三男	―SLのかま焚きから始 まった現場一筋 ―辛抱と攻め、の哲学
10月	長洲 一二	―御用 聞きで住吉を回って、人物探求、 ―燈燈無儘
1985年1月	永山 時雄	―和乎工 作から漢字の、親子、発見まで ―もう一人の自分、はごまかせ ない
2月	中村 卓彦	―SLのかま焚きから始 まった現場一筋 ―辛抱と攻め、の哲学
3月	駒井健一郎	―御用 聞きで住吉を回って、人物探求、 ―燈燈無儘
4月	梶山 静六	―和乎工 作から漢字の、親子、発見まで ―もう一人の自分、はごまかせ ない
1984年1月	武田 豊	―池田勇人の、成 長率日本一、と言われた男の話 ―不安を抑えて奪いとれ
2月	諸井 虔	―ブラン・ドウ・シーのチャ レンジ人生 ―悔しかったら仕事しろ
3月	村井 勉	―学校 創設以来の悪童の、型破り人生 ―「武蔵」を超える
4月	宇佐美忠信	―エジソンになろうとした少年 ―「武蔵」を超える
5月	伊藤 正	―「武蔵」を超える
6月	山本 政弘	―私は、我慢、する
7月	稲葉 興作	―幻の五輪 選手が挑む、トータル経営術 ―六文字、の王道を往く
8月	春名 和雄	―ぜ・しからば、で師を超える 私是不器用に生きた、
9月	宮崎 辰雄	―「モ トヤマ」流市政の前身と値うち ―首尾一貫する、の道理
10月	山口 敏夫	―政 界四十三年、宝塚五十年の足跡 わが反逆の実践録
11月	陳 舜臣	―「先見」 日本語游々の記
12月	中山 善郎	―啄木は私の 母を困らせたわいの歌人 ―「昼行燈」の、土魂蘭才
1986年1月	長岡 実	―「匠」を育てる ―自ら学び、自ら動け、の修行伝
2月	梶井 健一	―大陸流転の果てに、
3月	館 豊夫	―和乎工 作から漢字の、親子、発見まで ―もう一人の自分、はごまかせ ない
4月	小林庄一郎	―SLのかま焚きから始 まった現場一筋 ―辛抱と攻め、の哲学
5月	猪熊 時久	―御用 聞きで住吉を回って、人物探求、 ―燈燈無儘
6月	飯田庸太郎	―和乎工 作から漢字の、親子、発見まで ―もう一人の自分、はごまかせ ない
7月	橋口 収	―SLのかま焚きから始 まった現場一筋 ―辛抱と攻め、の哲学
8月	田辺 誠	―御用 聞きで住吉を回って、人物探求、 ―燈燈無儘
1981年1月	竹下 登	―おのが力と思うなよ、
2月	植村 光雄	―師佐 藤栄作から学んだ政治実践録 ―トランプ、アイズ・オン・オール ―トップ、は全力投球する
3月	海原 治	―一防衛官僚の告白的行状記 ―天皇、と呼ばれ、反骨の所 信を貫く
4月	三村 庸平	―泥まみれのすすめ ―人生は雑話から始まった
5月	坂田 栄男	―古碁で 蘇生、大死一番のモニユメント ―先人は樹を植える、
6月	大内 啓伍	―西村 の懐刀、がいま語る戦後私史 日々コレ挑戦ス
7月	戸崎 誠喜	―我が行動の人生に悔いなし ―野鳥の色でわかる日本列島の 秘密
8月	山階 芳麿	―野鳥の色でわかる日本列島の 秘密
9月	小野 晋	―デモクラティック・カンパニー、 のすすめ
10月	佐波 正一	―あるエンジニア経営者の記録 ―あくなき向上、に日々を賭 けて
11月	山下 元利	―わが青春の日々は…… ―漫々の好、を唇に弟妹を養 い生きる
12月	生方 泰二	―背中インパールの碑がある ―経営の極意、自分流のすすめ ―実証考古学、古代の声を聞く
1982年1月	末永 雅雄	―それはひとかけらの土器から 始まった
2月	友納 武人	―清濁は合せ吞まず、
3月	素野福次郎	―「企業は人づくりの道場」実 践録
4月	渡辺 格	―匂い、とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす
5月	金尾 實	―逆境も明日への道程 ―私はこうして病氣とシベリア 抑留に克った
6月	横路 孝弘	―DNA遺伝子の世界を彷徨う ―学校で豊を焦がす
7月	牛尾 治朗	―は実験で豊を焦がす この道を拓く
8月	力武 常次	―一村一品運動 でつくる、新開拓時代
9月	山崎 富治	―地位も権力も財産もいらぬ ―実存主義に共鳴、今、を忠実 に生きてきた
10月	塚本 三郎	―手を汚して、うだつ、をあげた ―「企業は人づくりの道場」実 践録
11月	富治 信	―匂い、とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす
12月	尾本 信平	―逆境も明日への道程 ―私はこうして病氣とシベリア 抑留に克った
1980年1月	青地 晨	―DNA遺伝子の世界を彷徨う ―学校で豊を焦がす
2月	西丸 震哉	―は実験で豊を焦がす この道を拓く
3月	松尾泰一郎	―一村一品運動 でつくる、新開拓時代
4月	尾本 信平	―地位も権力も財産もいらぬ ―実存主義に共鳴、今、を忠実 に生きてきた
5月	金丸 信	―手を汚して、うだつ、をあげた ―「企業は人づくりの道場」実 践録
6月	竹下 登	―匂い、とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす
7月	植村 光雄	―逆境も明日への道程 ―私はこうして病氣とシベリア 抑留に克った
8月	海原 治	―DNA遺伝子の世界を彷徨う ―学校で豊を焦がす
9月	三村 庸平	―は実験で豊を焦がす この道を拓く
10月	坂田 栄男	―一村一品運動 でつくる、新開拓時代
11月	大内 啓伍	―地位も権力も財産もいらぬ ―実存主義に共鳴、今、を忠実 に生きてきた
12月	戸崎 誠喜	―手を汚して、うだつ、をあげた ―「企業は人づくりの道場」実 践録
1979年1月	斎藤英四郎	―三十年間凝視つづけた バクさんの、自民党私史
2月	川又 克二	―私の経営論 ―静中ノ静ハ真ノ静ニ非ズ、
3月	佐々木良作	―慎重、は経営の美德 ―私が刻んだ昭和経済史 わが彷徨
4月	岩尾 一	―創造への情熱を秘めて ―骨太の男
5月	田中伊三次	―潮流に抗した官僚の記録 汗と涙はひとのためにながせ
6月	ヘンリー・ミトワ	―願かけた十年刻みの人生 ―この道、に入る
7月	多賀谷真稔	―「侍の宗教」から禅の世界へ 反骨と妥協と
8月	G・R・ペーカー	―ボタ山から歩 き始めたある政治家の半生 ―経営者の条件は、強い倫理観
9月	富塚 三夫	―御番所の息子、底辺に生きるの 記
10月	法眼 晋作	―労働運動の原点を求めて ―外交秘話、のなかの生きて
11月	松尾 金蔵	―中ソ対立を予言した吉田ワ ン
12月	平賀 潤二	―「散歩」人生を謳う
1980年1月	菊地庄次郎	―「散歩」人生を謳う
2月	岩田 式夫	―「散歩」人生を謳う
3月	小坂善太郎	―「散歩」人生を謳う
4月	岩井 章	―「散歩」人生を謳う
5月	金森 政雄	―「散歩」人生を謳う
6月	今井 正雄	―「散歩」人生を謳う
7月	亀井 正夫	―「散歩」人生を謳う
8月	伊藤 三郎	―「散歩」人生を謳う
9月	三遊亭圓生	―「散歩」人生を謳う
10月	ゲルト・クナツパー	―「散歩」人生を謳う
11月	岸本 泰延	―「散歩」人生を謳う
12月	黒川 武	―「散歩」人生を謳う
1984年1月	武田 豊	―「散歩」人生を謳う
2月	諸井 虔	―「散歩」人生を謳う
3月	村井 勉	―「散歩」人生を謳う
4月	宇佐美忠信	―「散歩」人生を謳う
5月	伊藤 正	―「散歩」人生を謳う
6月	山本 政弘	―「散歩」人生を謳う
7月	稲葉 興作	―「散歩」人生を謳う
8月	春名 和雄	―「散歩」人生を謳う
9月	宮崎 辰雄	―「散歩」人生を謳う
10月	山口 敏夫	―「散歩」人生を謳う
11月	陳 舜臣	―「散歩」人生を謳う
12月	中山 善郎	―「散歩」人生を謳う
1985年1月	永山 時雄	―「散歩」人生を謳う
2月	中村 卓彦	―「散歩」人生を謳う
3月	駒井健一郎	―「散歩」人生を謳う
4月	梶山 静六	―「散歩」人生を謳う
1986年1月	長岡 実	―「散歩」人生を謳う
2月	梶井 健一	―「散歩」人生を謳う
3月	館 豊夫	―「散歩」人生を謳う
4月	小林庄一郎	―「散歩」人生を謳う
5月	猪熊 時久	―「散歩」人生を謳う
6月	飯田庸太郎	―「散歩」人生を謳う
7月	橋口 収	―「散歩」人生を謳う
8月	田辺 誠	―「散歩」人生を謳う
1981年1月	竹下 登	―「散歩」人生を謳う
2月	植村 光雄	―「散歩」人生を謳う
3月	海原 治	―「散歩」人生を謳う
4月	三村 庸平	―「散歩」人生を謳う
5月	坂田 栄男	―「散歩」人生を謳う
6月	大内 啓伍	―「散歩」人生を謳う
7月	戸崎 誠喜	―「散歩」人生を謳う
8月	山階 芳麿	―「散歩」人生を謳う
9月	小野 晋	―「散歩」人生を謳う
10月	佐波 正一	―「散歩」人生を謳う
11月	山下 元利	―「散歩」人生を謳う
12月	生方 泰二	―「散歩」人生を謳う
1982年1月	末永 雅雄	―「散歩」人生を謳う
2月	友納 武人	―「散歩」人生を謳う
3月	素野福次郎	―「散歩」人生を謳う
4月	渡辺 格	―「散歩」人生を謳う
5月	金尾 實	―「散歩」人生を謳う
6月	横路 孝弘	―「散歩」人生を謳う
7月	牛尾 治朗	―「散歩」人生を謳う
8月	力武 常次	―「散歩」人生を謳う
9月	山崎 富治	―「散歩」人生を謳う
10月	塚本 三郎	―「散歩」人生を謳う
11月	富治 信	―「散歩」人生を謳う
12月	尾本 信平	―「散歩」人生を謳う
1980年1月	青地 晨	―「散歩」人生を謳う
2月	西丸 震哉	―「散歩」人生を謳う
3月	松尾泰一郎	―「散歩」人生を謳う
4月	尾本 信平	―「散歩」人生を謳う
5月	金丸 信	―「散歩」人生を謳う
6月	竹下 登	―「散歩」人生を謳う
7月	植村 光雄	―「散歩」人生を謳う
8月	海原 治	―「散歩」人生を謳う
9月	三村 庸平	―「散歩」人生を謳う
10月	坂田 栄男	―「散歩」人生を謳う
11月	大内 啓伍	―「散歩」人生を謳う
12月	戸崎 誠喜	―「散歩」人生を謳う

1986年9月	丸谷 金保	日記して足らず歳計して余りあり。ここに山ぶどうがあった。十勝ワイン奮戦記
1986年10月	田川 誠一	いま振り返る苦難の、井戸掘り。一日中と政治倫理にかけた二十五年
1987年1月	宇野 宗佑	春風鉄壁を貫く。いま話そう中曽根政権誕生秘話
1987年2月	山城 彬成	復興に燃えたわが青春の日々。青年会活動から、現場。を志願、日本鋼管へ
1987年3月	高沢 寅男	焼け野原に平等を見た。良寛を愛する庶民政治家。寅さん。の原点
1987年4月	渡里杉一郎	未来が現在を規定する。莫妄想。を胸に前向きに歩む。人生の八〇％は運命である。器量がそれを判断し自分のものにする
1987年5月	藤原 一郎	禍は得意に生ずる。金と結びついてはいいい政治はできない人の。かざしも。に立たず。紛れ込み遅延。が本腰を入れて労働運動四十年
1987年6月	鯨岡 兵輔	頼ずれる人になれ。母の言葉を胸に。蓄音機で中野正剛の演説を聞き、運命の道を歩く反骨の。やり直し人生
1987年7月	山岸 章	農林省から住友へ、化学の世界にユメを賭けた
1987年8月	渡部 恒三	人間が存在する政治を目指して。沖繩返還で佐藤総理と論陣を張る
1987年9月	土方 武	陽が昇るから、夜が明ける。鉛筆を倒して決めた電気の道と。それから
1987年10月	川崎 寛治	対話。が新しい価値を生む。人格、徳性をブラシユアアップした予科の。無監督テスト。いま生命の大切さを知る
1987年11月	海部 俊樹	動物と生きた四十年、自然との共存の夢を追う
1987年12月	武宮 正樹	木のいのち、木のころ。宮大工六十年、飛鳥の知恵で今、薬師寺伽藍再建に挑む。勘忍し。や。戦後復興の木材輸入で味わった。地獄と天国。和顔愛語。に生きる
1988年1月	田中 精一	ローアウト精神に燃え、過去を悔いず。電車の運転手からスタートした電力マンの軌跡。人生に設計図はない。挫折の果てに出会ったウルマンの「青春の詩」
1988年2月	宇野 収	私は逃げなかった。やましいことがなかったからやり抜けた国鉄民営化。失敗の記録。を残せ
1988年3月	三塚 博	モーターヒと筋。平凡な人生。を変えた二つの転機。空の心なり
1988年4月	片山仁八郎	原子力の安全を。科学。するわれ泥中の根のごとく。国会裏方二十五年の記録。将らず逆えず。死ぬまで仕事に挑み続けた父の背中。朝のこない夜はない
1988年5月	内田 秀雄	青春を樺太に生きて。私は。幻の佐藤。周恩来会談をセツトした。日中・日朝。ひとり我が道を行く。とらわれない心。で生きる
1988年6月	山口 鶴男	大恥をかかせても素平さんは怒らなかつた
1988年7月	諸橋 晋六	地球はまるくはなかつた。果てでもない宇宙にのめりこんで四十年
1988年8月	河毛 二郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1988年9月	久野 忠治	ビッグ・バン(創造的破壊)に燃える。オートバイで工場診断に飛び回った若き銀行野郎
1988年10月	住吉 弘人	私の「豊の国」づくり実践記。県は自ら助くるものを助く。日々新たな。分裂から再編。統一へ労働運動四十年を歩く。もともと地上に道はない、みんなて歩けば道になる。エネルギーの未来とその科学的選択
1988年11月	古在 由秀	怒らなかつた
1988年12月	藤波 孝生	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1989年1月	田島 敏弘	私は自ら助くるものを助く。日々新たな。分裂から再編。統一へ労働運動四十年を歩く。もともと地上に道はない、みんなて歩けば道になる。エネルギーの未来とその科学的選択
1989年2月	平松 守彦	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1989年3月	豎山 利文	私は自ら助くるものを助く。日々新たな。分裂から再編。統一へ労働運動四十年を歩く。もともと地上に道はない、みんなて歩けば道になる。エネルギーの未来とその科学的選択
1989年4月	福岡 知之	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1989年5月	米沢 隆	私は自ら助くるものを助く。日々新たな。分裂から再編。統一へ労働運動四十年を歩く。もともと地上に道はない、みんなて歩けば道になる。エネルギーの未来とその科学的選択
1989年6月	北岡 徹	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1989年7月	吉野 俊彦	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1989年8月	伊藤 茂	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1989年9月	井出 太郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1989年10月	伊藤 昌壽	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1989年11月	岩村 英郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1989年12月	小山 五郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1990年1月	伊藤 昌壽	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1990年2月	深海 正治	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1990年3月	井出 太郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1990年4月	伊藤 茂	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1990年5月	三田 勝茂	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1990年6月	北岡 徹	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1990年7月	吉野 俊彦	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1990年8月	中野 友雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1990年9月	寺澤 芳男	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1990年10月	新関 欽哉	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1990年11月	岩村 英郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1990年12月	小山 五郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1991年1月	宇野 宗佑	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1991年2月	山城 彬成	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1991年3月	岡田 節人	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1991年4月	相川賢太郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1991年5月	中尾 佐助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1991年6月	三宅 和助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1991年7月	佐々木秀典	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1991年8月	加藤 紘一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1991年9月	阿部 謹也	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1991年10月	日高 敏隆	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1991年11月	窪田 俊彦	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1991年12月	宮岡 公夫	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1992年1月	龍野 富雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1992年2月	永倉 三郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1992年3月	西岡 常一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1992年4月	西岡 常一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1992年5月	西岡 武夫	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1992年6月	アリフィン・ペイ	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1992年7月	井之口章次	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1992年8月	大森 安恵	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1992年9月	岡野加徳留	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1992年10月	秋山 富一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1992年11月	横原 稔	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1992年12月	今井 隆吉	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1993年1月	上山 保彦	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1993年2月	中野 友雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1993年3月	羽田 孜	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1993年4月	西澤 潤一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1993年5月	松谷健一郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1993年6月	國弘 正雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1993年7月	林 海峯	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1993年8月	中江 要介	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1993年9月	寺澤 芳男	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1993年10月	上原 康助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1993年11月	齋藤 裕	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1993年12月	岩村 昇	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1994年1月	宇野 宗佑	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1994年2月	山下 勇	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1994年3月	篠原 一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1994年4月	相川賢太郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1994年5月	中尾 佐助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1994年6月	三宅 和助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1994年7月	佐々木秀典	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1994年8月	加藤 紘一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1994年9月	阿部 謹也	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1994年10月	日高 敏隆	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1994年11月	窪田 俊彦	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1994年12月	宮岡 公夫	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1995年1月	龍野 富雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1995年2月	永倉 三郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1995年3月	西岡 常一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1995年4月	西岡 常一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1995年5月	西岡 武夫	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1995年6月	アリフィン・ペイ	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1995年7月	井之口章次	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1995年8月	大森 安恵	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1995年9月	岡野加徳留	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1995年10月	秋山 富一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1995年11月	横原 稔	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1995年12月	今井 隆吉	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1996年1月	上山 保彦	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1996年2月	中野 友雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1996年3月	羽田 孜	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1996年4月	西澤 潤一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1996年5月	松谷健一郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1996年6月	國弘 正雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1996年7月	林 海峯	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1996年8月	中江 要介	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1996年9月	寺澤 芳男	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1996年10月	上原 康助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1996年11月	齋藤 裕	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1996年12月	岩村 昇	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1997年1月	宇野 宗佑	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1997年2月	山城 彬成	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1997年3月	岡田 節人	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1997年4月	相川賢太郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1997年5月	中尾 佐助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1997年6月	三宅 和助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1997年7月	佐々木秀典	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1997年8月	加藤 紘一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1997年9月	阿部 謹也	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1997年10月	日高 敏隆	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1997年11月	窪田 俊彦	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1997年12月	宮岡 公夫	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1998年1月	龍野 富雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1998年2月	永倉 三郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1998年3月	西岡 常一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1998年4月	西岡 常一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1998年5月	西岡 武夫	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1998年6月	アリフィン・ペイ	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1998年7月	井之口章次	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1998年8月	大森 安恵	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1998年9月	岡野加徳留	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1998年10月	秋山 富一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1998年11月	横原 稔	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1998年12月	今井 隆吉	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1999年1月	上山 保彦	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1999年2月	中野 友雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1999年3月	羽田 孜	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1999年4月	西澤 潤一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1999年5月	松谷健一郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1999年6月	國弘 正雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1999年7月	林 海峯	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1999年8月	中江 要介	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1999年9月	寺澤 芳男	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1999年10月	上原 康助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1999年11月	齋藤 裕	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
1999年12月	岩村 昇	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2000年1月	宇野 宗佑	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2000年2月	山城 彬成	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2000年3月	岡田 節人	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2000年4月	相川賢太郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2000年5月	中尾 佐助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2000年6月	三宅 和助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2000年7月	佐々木秀典	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2000年8月	加藤 紘一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2000年9月	阿部 謹也	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2000年10月	日高 敏隆	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2000年11月	窪田 俊彦	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2000年12月	宮岡 公夫	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2001年1月	龍野 富雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2001年2月	永倉 三郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2001年3月	西岡 常一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2001年4月	西岡 常一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2001年5月	西岡 武夫	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2001年6月	アリフィン・ペイ	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2001年7月	井之口章次	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2001年8月	大森 安恵	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2001年9月	岡野加徳留	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2001年10月	秋山 富一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2001年11月	横原 稔	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2001年12月	今井 隆吉	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2002年1月	上山 保彦	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2002年2月	中野 友雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2002年3月	羽田 孜	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2002年4月	西澤 潤一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2002年5月	松谷健一郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2002年6月	國弘 正雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2002年7月	林 海峯	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2002年8月	中江 要介	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2002年9月	寺澤 芳男	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2002年10月	上原 康助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2002年11月	齋藤 裕	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2002年12月	岩村 昇	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2003年1月	宇野 宗佑	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2003年2月	山城 彬成	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2003年3月	岡田 節人	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2003年4月	相川賢太郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2003年5月	中尾 佐助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2003年6月	三宅 和助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2003年7月	佐々木秀典	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2003年8月	加藤 紘一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2003年9月	阿部 謹也	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2003年10月	日高 敏隆	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2003年11月	窪田 俊彦	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2003年12月	宮岡 公夫	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2004年1月	龍野 富雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2004年2月	永倉 三郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2004年3月	西岡 常一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2004年4月	西岡 常一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2004年5月	西岡 武夫	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2004年6月	アリフィン・ペイ	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2004年7月	井之口章次	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2004年8月	大森 安恵	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2004年9月	岡野加徳留	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2004年10月	秋山 富一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2004年11月	横原 稔	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2004年12月	今井 隆吉	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2005年1月	上山 保彦	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2005年2月	中野 友雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2005年3月	羽田 孜	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2005年4月	西澤 潤一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2005年5月	松谷健一郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2005年6月	國弘 正雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2005年7月	林 海峯	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2005年8月	中江 要介	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2005年9月	寺澤 芳男	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2005年10月	上原 康助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2005年11月	齋藤 裕	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2005年12月	岩村 昇	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2006年1月	宇野 宗佑	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2006年2月	山城 彬成	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2006年3月	岡田 節人	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2006年4月	相川賢太郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2006年5月	中尾 佐助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2006年6月	三宅 和助	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2006年7月	佐々木秀典	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2006年8月	加藤 紘一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2006年9月	阿部 謹也	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2006年10月	日高 敏隆	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2006年11月	窪田 俊彦	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2006年12月	宮岡 公夫	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2007年1月	龍野 富雄	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2007年2月	永倉 三郎	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2007年3月	西岡 常一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2007年4月	西岡 常一	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2007年5月	西岡 武夫	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2007年6月	アリフィン・ペイ	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2007年7月	井之口章次	我が生涯は。第二捕手。喜びがある
2007年8月		

私の生き方

2001年10月	川喜田二郎	渾沌をして語らしめる ―KJ法で癒される現代人の心 自分らしく生きる
11月	紀平 悌子	―私の中の麻布材木町六十八番地
12月	丹羽宇一郎	心も行動も自分のありのままに ―英断を支えた経営哲学
2002年1月	都留 重人	21世紀日本へのメッセージ ―祖国敗戦から57年の軌跡を顧み
2月	片山 豊	「ミスターK」のZの哲学 ―スポーツカーの志を次世代へ
3月	竹内 均	茶碗の湯と新大陸移動説 ―中学生の夢を実現した勤勉・正直・感謝
4月	鶴見 俊輔	千年紀に生きる ―元不良少年が紡いだ、隅っこの思想
5月	日沼 頼夫	幻のウイルスを追う ―ATLウイルスの発見から日本人の起源へ
6月	三遊亭金馬	落語が好きで好きで ―将来を決めた一枚のレコード
7月	子安美知子	人生はあみだくじ ―私の引き揚げ体験とシユタイナー教育
8月	青木 淳一	地球生物の戸籍簿 ―ダニ学の権威が語る自然・生命・教育
9月	河合 隼雄	心との対話 ―臨床心理学者が見た現代日本人の病
10月	中村 桂子	DNAは生命38億年の記録 ―分子生物学から「生命誌」へ
11月	観世 榮夫	七十五歳の、初心 ―能楽界の風雲児が語る幽玄の世界
12月	小泉 武夫	微生物が人類を救う ―「発酵飯面」の少年時代回想
2003年1月	森 浩一	考古学は地域に勇気を与える ―コンマもピリオドもない研究者人生
2月	大田 昌秀	戦争には勝者も敗者もない ―戦後の人生を決めた沖繩戦体験
2004年1月	林 雄二郎	未来研究は現代研究である―情報社会とフイランソロビー
2月	村山 雅美	ぼくの南極の原点はマナスル
3月	河合 雅雄	ぼくは自然と本に育てられた
4月	加藤 丈夫	―サル学の原点は戦争体験
5月	山内 一也	―手塚治虫さんの思い出と私の二つの転機
6月	ゲブハルト・ヒールリッシャー	―人獣共通感染症との闘い
7月	上田トシコ	―ドイト人記者が語る戦争・戦争責任・日本
8月	宮脇 昭	―異国で国破れて
9月	堀井令知	―明るくたくましく八十七歳の漫画家人生
10月	小中陽太郎	―ウイルスの世界に魅せられて
11月	宮脇 昭	―人獣共通感染症との闘い
12月	河岡 義裕	―ドイト人記者が語る戦争・戦争責任・日本
2005年1月	武村 正義	―政治改革のさきがけとして
2月	佐藤 勝彦	―宇宙は無限に生まれ続けている
3月	太田 朋子	―宇宙開闢の謎
4月	愛川 欽也	―「ぼくは中立説」とランダムなゆらぎ
5月	山極 寿一	―ゴリラはヒトを超えている
6月	岩國 哲人	―三つの辞表
7月	青柳 正規	―アウグストゥスの遺産
8月	団 まりな	―古代ローマから現代が見える細胞の社交ダンス
9月	堀井令知	―進化を読む「階層性の生物学」
10月	小中陽太郎	―ことばはいつの時代も揺れている
11月	宮脇 昭	―将来志望に言語学者と書いた中学生
12月	河岡 義裕	―ぼくは憲法を呼吸している
2006年1月	諏訪 元	―私のトロロ、が育んだ市民の思想
2月	木田 元	―未来へつなぐ三千万本の植樹
3月	畑村洋太郎	―ロック少年からウイルスの世界へ
4月	榎崎弥之助	―封印をひらく
5月	サトウサンペイ	―「国会の爆弾男」と呼ばれて
6月	藤嶋 昭	―「ぼくの戦中・戦後史と『フジ三太郎』」
7月	上野 俊一	―物華天宝
8月	伊東 光晴	―光触媒をめぐる不思議な縁
9月	浅野 史郎	―「眼のない虫」の不思議
10月	矢吹 晋	―洞窟動物はどこから来たか？
11月	辻 真先	―二人の師に導かれた私の経済学
12月	武者 利光	―福祉に還る
2007年1月	赤祖父俊一	―「知事をやめてよかった」理由
2月	三國 陽夫	―朝河平和学の地下水脈をたどる
3月	伊藤 滋	―大人を信じちゃいけない
4月	すぎやまこういち	―漫画・TV・アニメを愛して七十年
5月	塩川正十郎	―1/fゆらぎの心地よさ
6月	尾島 俊雄	―統計物理学の盲点に迫る
7月	三浦 公亮	―オーロラの謎に挑む
8月	外山 雄三	―北極圏の自然と地球温暖化
9月	宮田 善紀	―「三國格付け」の視点
10月	甲野 善紀	―日本経済は転換を求められている
11月	高谷 好一	―まなじりを決した都市計画
12月	岩佐美代子	―斜めに世の中を見る
2008年1月	野口悠紀雄	―音楽とゲームが好きでドラクエに行き着いた
2月	井村 君江	―心は慈悲で、倫理は武士道で
3月	大隅 清治	―21世紀の「まほろば」
4月	遠藤 章	―ヒートアイランドからの更生
5月	吉村絵美留	―航空・折紙・宇宙
6月	石 弘光	―「ミウラ折り」の発想の原点
7月	出井 伸之	―オヘアと民謡と指揮者修行
8月	亀湖 昭信	―1%未満の差を競う―アメリカズ・カップから学んだこと
9月	岩佐美代子	―山は大きなエネルギーをくれる
10月	高川 真一	―世界最高峰に立ったママさん登山家
11月	茅 陽一	―人類は滅びるぞ―森本おじさんの宇宙・時間・生命
12月	伊藤 修令	―骨は情報のタイムカプセル
2009年1月	三浦雄一郎	―人類七〇〇万年の旅を追って
2月	野口悠紀雄	―国際緊急医療援助の現場で
3月	井村 君江	―「難民キャンプで学んだ」医療の原点
4月	大隅 清治	―怒るだけでは事故はなくなる
5月	遠藤 章	―「鉄道から宇宙技術の最前線へ
6月	石 弘光	―カビは遺伝子資源である
7月	出井 伸之	―真菌医学の権威が語る、超二流の哲学
8月	亀湖 昭信	―面白い政治家が少なくなったね
9月	岩佐美代子	―偉大なる未完成で終わりたい
10月	高谷 好一	―人間国宝が語る講談・伝統・現代
11月	出井 伸之	―生命35億年の、偶然と必然
12月	石 弘光	―ヒトゲノムの遺伝暗号を解説する
2010年1月	永井 一郎	―人間の連帯経済、のすすめ
2月	井村 君江	―豊かさへの道を踏み間違えた日本人
3月	大隅 清治	―報道社会とフイランソロビー
4月	遠藤 章	―ぼくの南極の原点はマナスル
5月	吉村絵美留	―極点踏破五〇〇〇キロの旅
6月	石 弘光	―ぼくは自然と本に育てられた
7月	出井 伸之	―サル学の原点は戦争体験
8月	亀湖 昭信	―手塚治虫さんの思い出と私の二つの転機
9月	岩佐美代子	―ウイルスの世界に魅せられて
10月	高谷 好一	―人獣共通感染症との闘い
11月	出井 伸之	―ドイト人記者が語る戦争・戦争責任・日本
12月	石 弘光	―異国で国破れて
2011年1月	原田 泰治	―ユール・リメの後継者を探せ
2月	村上 和雄	―広がるサッカーの世界
3月	野見山暁治	―妖怪研究は人間研究である
4月	堀江 謙一	―見えないものに対する畏敬の念
5月	石原 信雄	―「再び愚かな祖先にならないために」
6月	佐藤 安太	―鉦山のタンゴと原子力
7月	兼高かおる	―研究者から経営者へ
8月	渡辺 弘之	―「音楽は幻です」
9月	吉野 彰	―フリージャズ一直線
10月	青木 保	―警察医は死者の側に立つ
11月	中嶋 悟	―デカルトから野生の思考へ
12月	富田 勲	―上手な脳の使い方
2012年1月	富田 勲	―サルからヒトへ広がる研究分野
2月	榎山 紘一	―政治の約束、国民のせんとく
3月	谷内正太郎	―政治の約束、国民のせんとく
4月	小松 一憲	―政治の約束、国民のせんとく
5月	富田 勲	―政治の約束、国民のせんとく
6月	富田 勲	―政治の約束、国民のせんとく
7月	富田 勲	―政治の約束、国民のせんとく
8月	富田 勲	―政治の約束、国民のせんとく
9月	富田 勲	―政治の約束、国民のせんとく
10月	富田 勲	―政治の約束、国民のせんとく
11月	富田 勲	―政治の約束、国民のせんとく
12月	富田 勲	―政治の約束、国民のせんとく

私の生き方

2012年5月	赤崎 勇	独り荒野を行く ―青色LED開発の道のり ジブシーになりたい! ―ケルトと日本は「世界の両耳飾り」
6月	鶴岡 真弓	
7月	松村 喜秀	ニセ札のDNAを探せ! 落語とジャズと進駐軍 クラリネットに魅せられて 裸足の文化人類学者、 ソマリアに立つ
8月	北村 英治	
9月	西江 雅之	
10月	坂村 健	僕の「どこでもコンピュータ」 ―TORONからユビキタスへ アホウドリに会いに行く ―絶滅の危機を救った秘策 ―「歌う生物学者」の 隅っこ思想
11月	長谷川 博	
12月	本川 達雄	
2013年1月	大鵬 幸喜	「柏戸関は泣いてましたよ」 ―良きライバルとの出会い 雪に打ち勝つ ―マイナスをプラスに変える富山人
2月	綿貫 民輔	
3月	秦 郁彦	歴史家に職人精神を 製造から創造へ ―「はやぶさ」を継ぐもの サンブルのない世界 ―電子楽器開発五十年 ウナギの謎を追う オレ、50年早過ぎたんだ ―大人アニメの草分け 我々はまだベートトウヴェンを聴いていない カラスはスーパードウエンを聴いていない ヒューマンなモダンズム建築のために
4月	川口淳一郎	
5月	梯 郁太郎	
6月	塚本 勝巳	
7月	久里 洋二	
8月	小林研一郎	
9月	杉田 昭栄	
10月	横 文彦	
11月	松井 孝典	
12月	上田 正昭	
2014年1月	松沢 哲郎	今に生きる古代の精神 ―島国史観を超えて 地図のない山をめざす ―チンパンジーといえる時間 「折る平和」から「創る平和」へ ―極限的環境で探る生命史
2月	明石 康	
3月	北里 洋	
2015年1月	大鵬 幸喜	
2月	窪寺 恒己	ダイオウイカとの邂逅 ザ・フォーク・クルセダーズ のあの一年間 狂言の笑いはほほえみです ―重さを通り越した軽さを求めて
3月	きたやまおさむ	
4月	野村 萬	
5月	藤森 照信	どこにもない建物をつくる 「年稿」は地球の遺伝子 レンガ模様のパツハの旋律 ゲーム理論は「言葉」である 日本発「ドローンOS」を世界標準に
6月	安田 喜憲	
7月	鈴木 雅明	
8月	鈴木 光男	
9月	野波 健蔵	
10月	高橋三保子	ゾウリムシを夢中で追いかけて 国家危機管理のDNA 思索せよ、そして謙虚であれ ―大平正芳に学んだ未来への視点
11月	佐々 淳行	
12月	福川 伸次	
2016年1月	古市 剛史	ボノボ、チンパンジー、そして ヒト。―われわれはなぜ エゴイズムを持つのだろうか もう宇宙飛行は特別じゃない ―日本は閉鎖系技術で貢献を 時代に影響されない建築をつくる
2月	向井 千秋	
3月	坂 茂	
2017年1月	田中 哲二	私を支えた「黒四の工事記録」 私は「フイギュアスケート普及部」のコーチ 小鳥のさえずりにも文法がある ゴルフの極意は「体・技・心」 毛沢東の真実を突きつける 短歌は「瞬間の詩」である 「お雇われ日銀マン」の孤軍奮闘記 ―中央アジア開発に日本モデルのすすめ ―抜歯が語る弥生人の社会 国鉄民営化に賭けた人生 ローマンと日本人は意外と似ている 日本人とは何か、人間って何なんだろう 僕は「うどんこ」学者なんです ―歴史人口学で浮かび上がった江戸時代
2月	速水 融	
3月	篠田 謙一	
4月	葛西 敬之	
5月	本村 凌二	
6月	篠田 謙一	
7月	速水 融	
8月	小倉 和夫	
9月	石飛 幸三	
10月	小錦八十吉	
11月	田沼 靖一	
12月	深町眞理子	訳者は役者である 創作者は名前だけ貸してはいけない 日揮の社員たる前に、顧客の社員たれ 不良少年は最高峰をめざす 京大アメフト部と青春のダム建設現場 紙と鉛筆で考えた「量子アニーリング」 一枚の写真に閉じ込める無限の時間
2018年1月	松沢 哲郎	
2月	明石 康	
3月	北里 洋	
4月	向井 千秋	
5月	西森 秀稔	
6月	細江 英公	
2018年7月	福田 康夫	アジアに生きる日本の心がまえ 左手のピアニストが紡ぐパツハの「シヤコンヌ」 アイアイの不思議な指―全共闘のリーダーがサル学者になった AI時代における文理融合のすすめ 陸軍幼年学校で過ごした5カ月 ―国民的ミステリー作家の原点 クラゲ館長の「夢の水族館」 ゾウリムシ研究でたどりついた 「私の生命観」 神岡は私の研究人生のすべて 来ないエレベーターが結んだ縁 ―環境循環社会の中心にセメント産業がある 水中考古学がひらく「海のタイムカプセル」 安全保障の仕事に一生をかける人、出でよ 山の鳴き声に耳を傾ける アポロ11号月面着陸から英語教育へ それでも走るのが好きだった ―三度目に掴んだオリンピックの舞台 日本捕鯨・タフネゴシエーターの志 アンコール・ワットをカンボジア人の手に ―遺跡修復とグローバル人材育成 僕を「国境なき医師団」に導いた二つの出会い キッチンから幸せ発信 僕の原点になった「竹原火力3号機」立地交渉 「ミスターGTR」の非常識な本質 ひとの幸せの総量を増やす ―外交・安保が私のライフワーク 喜劇を演じることはとても怖いんです 野球が導いた外交官の道
8月	館野 泉	
9月	島 泰三	
10月	西垣 通	
11月	西村京太郎	
12月	村上 龍男	
2018年8月	館野 泉	
2019年1月	高木 由臣	
2月	梶田 隆章	
3月	不死原正文	
4月	井上たかひこ	
5月	森本 敏	
6月	宮本 雅文	
7月	鳥飼玖美子	
8月	宗 猛	
9月	小松 正之	
10月	石澤 良昭	
11月	加藤 寛幸	
12月	平野 レミ	
2020年1月	北村 雅良	
2月	水野 和敏	
3月	高村 正彦	
4月	伊東 四朗	
5月	加藤 良三	
2020年12月	山本 右京	
2021年1月	伊吹 文明	
2月	井手 峻	
3月	佐々木 毅	
4月	広瀬 茂男	
2021年1月	水野 英子	学問はひとつ ―ヤポネシアゲノムが解明する 人類の歴史 私は小説家には向いていなかった 私は小説家には向いていなかった ガンダム監督の「敗北者宣言」 創造性の連続が起こる建築 「18歳の4番打者」が辿り着いた パツティングの極意 3万年前の航海再現で迫る「人間の本当の姿」 私とは近代日本文学の最後に来た者 青春のトキワ荘と私の漫画家人生 たった一行の提案書が生んだ 「GISHOCK」 詩の声に耳をすます 朝から晩までテレビのことを考えてきた 「自分流」でつかんだ金メダル ―東京五輪に向けた1460日の挑戦 奇妙な繰り返し配列クリスパーの謎 人との出会い、アメリカとの出会い、憲法との出会い 日本人としてつくる僕のフランク料理 山と谷を乗り越えて、今の私がある ―「ピンク・レディー」 はかけがえのない経験 僕はF1で得たものばかりで失ったものは何一つなかった 朝の来ない夜はない 東日本大震災を乗り越える 運慶に会いに行く 保守政治の真髄とは何か? 硬球をバットで打ったあの感触からはじまった ―東大野球部からドラゴンズへ 東大総長になった牛飼いの少年 ―政治制度改革の舞台裏 社会に役立つロボットの創造開発
2月	水村 美苗	
3月	吉増 剛造	
4月	今野 勉	
5月	三宅 義信	
6月	石野 良純	
7月	阿川 尚之	
8月	三國 清三	
9月	未唯 me	
10月	片山 右京	
11月	海輪 誠	
12月	山本 勉	
2022年1月	伊吹 文明	
2月	井手 峻	
3月	佐々木 毅	
4月	広瀬 茂男	
2022年12月	山本 右京	
2023年1月	伊吹 文明	
2月	井手 峻	
3月	佐々木 毅	
4月	広瀬 茂男	
2023年5月	赤崎 勇	史料に昭和を語らせる 俺は落語以外何もできない 「心を持ったロボットの」をめざす 生き物はなぜ眠るのか? ―偶然飛び込んだ、睡眠研究の世界 私を支えた「黒四の工事記録」 私は「フイギュアスケート普及部」のコーチ 小鳥のさえずりにも文法がある ゴルフの極意は「体・技・心」 毛沢東の真実を突きつける 短歌は「瞬間の詩」である 「お雇われ日銀マン」の孤軍奮闘記 ―中央アジア開発に日本モデルのすすめ ―抜歯が語る弥生人の社会 国鉄民営化に賭けた人生 ローマンと日本人は意外と似ている 日本人とは何か、人間って何なんだろう 僕は「うどんこ」学者なんです ―歴史人口学で浮かび上がった江戸時代
6月	鶴岡 真弓	
7月	松村 喜秀	
8月	北村 英治	
9月	西江 雅之	
10月	坂村 健	
11月	長谷川 博	
12月	本川 達雄	
2012年4月	石毛 直道	
5月	君原 健二	
6月	福岡 正夫	
7月	大塚 初重	
8月	内海 孚	
9月	米沢富美子	
10月	宮本 文昭	
11月	宇津木妙子	
12月	立木 義浩	
2015年1月	北村 泰一	
2月	窪寺 恒己	
3月	きたやまおさむ	
4月	野村 萬	
5月	藤森 照信	
6月	安田 喜憲	
7月	鈴木 雅明	
8月	鈴木 光男	
9月	野波 健蔵	
10月	高橋三保子	
11月	佐々 淳行	
12月	福川 伸次	
2016年1月	古市 剛史	
2月	向井 千秋	
3月	坂 茂	
2017年1月	田中 哲二	
2月	速水 融	
3月	篠田 謙一	
4月	葛西 敬之	
5月	本村 凌二	
6月	篠田 謙一	
7月	速水 融	
8月	小倉 和夫	
9月	石飛 幸三	
10月	小錦八十吉	
11月	田沼 靖一	
12月	深町眞理子	
2018年1月	松沢 哲郎	
2月	明石 康	
3月	北里 洋	
4月	向井 千秋	
5月	西森 秀稔	
6月	細江 英公	
2018年5月	若宮 正子	私は80歳から成長した ―「英知」という翼を持った世界最高齢プログラマー 死なないように自由に生きる サケの生き方に学ぶ 総理夫人の愛の讃歌 何がキトラ古墳の壁画を今に伝えたのか? 誰がグレートリセットをするのか 「公益の心」を大切に デビュー曲は自分への応援歌だった ―「タイムボカン」は私の宝物
6月	橋本 周司	
7月	柳沢 正史	
8月	大田 弘	
9月	山田満知子	
10月	岡ノ谷一夫	
11月	青木 功	
12月	遠藤 誉	
2017年1月	岡井 隆	
2月	田中 哲二	
3月	春成 秀爾	
4月	葛西 敬之	
5月	本村 凌二	
6月	篠田 謙一	
7月	速水 融	
8月	小倉 和夫	
9月	石飛 幸三	
10月	小錦八十吉	
11月	田沼 靖一	
12月	深町眞理子	
2018年1月	松沢 哲郎	
2月	明石 康	
3月	北里 洋	
4月	向井 千秋	
5月	西森 秀稔	
6月	細江 英公	
2018年5月	若宮 正子	
6月	橋本 周司	
7月	柳沢 正史	
8月	大田 弘	
9月	山田満知子	
10月	岡ノ谷一夫	
11月	青木 功	
12月	遠藤 誉	
2017年1月	岡井 隆	
2月	田中 哲二	
3月	春成 秀爾	
4月	葛西 敬之	
5月	本村 凌二	
6月	篠田 謙一	
7月	速水 融	
8月	小倉 和夫	
9月	石飛 幸三	
10月	小錦八十吉	
11月	田沼 靖一	
12月	深町眞理子	
2018年1月	松沢 哲郎	
2月	明石 康	
3月	北里 洋	
4月	向井 千秋	
5月	西森 秀稔	
6月	細江 英公	
2018年5月	若宮 正子	
6月	橋本 周司	
7月	柳沢 正史	
8月	大田 弘	
9月	山田満知子	
10月	岡ノ谷一夫	
11月	青木 功	
12月	遠藤 誉	
2017年1月	岡井 隆	
2月	田中 哲二	
3月	春成 秀爾	
4月	葛西 敬之	
5月	本村 凌二	
6月	篠田 謙一	
7月	速水 融	
8月	小倉 和夫	
9月	石飛 幸三	
10月	小錦八十吉	
11月	田沼 靖一	
12月	深町眞理子	

対話

Table with columns for dates (1968, 1969, 1970, 1971, 1972, 1973) and names of participants. Topics include A氏's不安, 経済成長と自治体, 物価の不安, 環境問題, 労働者の真の解放, etc.

対話

Table with columns for dates (1973, 1974, 1975, 1976, 1977) and names of participants. Topics include 73年を語る, この物価をどうする, ニッポンへの裸の直言, 76年版税金改定早見表, etc.

1985年10月	小此木政夫 丹藤 佳紀 堀 昌雄	「38度線」が消える日 ―朝鮮・南北対話の現実と予測 ―ゴルバチョフの「対日政策」は こう変わる ―ソ連最新情報と 中曽根外交への注文 一九八六年の「国際新情報」を 読む ―ゴルバチョフ・レーガ ン会談後のゆくえ 日英経済ジャーナリストの見た 貿易戦争 ―日本人がカリフォル ニア米を食う日 趙安博氏が語る日中50年秘史 「蘆溝橋」から「宝山」への道程 フイリピン人の最も長い一日 ―反乱前夜、主役たちが語った 革命の現実と未来 これがゴルバチョフ新外交 N・A・シレンコ 戦略―危機回避の選択肢 米、中東政策の背景を分析する レーガンはリビア攻撃で何を狙 ったか？ ピュニッツァー賞記者が取材した 米国、日本、フイリピン L・M・サイモンズ の「政治の真情」 君たち日本人は頑固だ！ C・T・ラトクリフ ―アメリカ第一線ビジネ K・A・グロスハイグ スマンが解析する 日本経済 日本の民主主義は「幕府型」だ 大勝自民に予測される政治・経 済、二つの陥穽 米価批判への反証 農産物から「世界恐慌」が始まる S・D・Iの神話と現実 ―戦略なき参加への疑問 世交代代期中の「三つの課題」 ―経済協力、人材交流への視点 ゴルバチョフ、新対日戦略を検 証する ―ソ連外交渉術に日本 はどう対応すべきか 「新税制」は二十一世紀に依えて いるか ―大局を見失った拙速 改革を追跡する 青木 茂 野口悠紀雄	1986年1月	C・スマイス 松尾 文夫	1986年2月	趙 安博 真田 岩助 伊藤 公介 高木 暢之	1986年3月	高木 暢之	1986年4月	木村 見三 宮治 一雄 最首 公司	1986年5月	宮治 一雄 最首 公司	1986年6月	木村 見三 宮治 一雄 最首 公司	1986年7月	高木 暢之	1986年8月	木村 見三 宮治 一雄 最首 公司	1986年9月	最首 公司	1986年10月	最首 公司	1986年11月	高木 暢之	1986年12月	高木 暢之	1987年1月	青木 茂 野口悠紀雄	1987年2月	青木 茂 野口悠紀雄	1987年3月	青木 茂 野口悠紀雄	1987年4月	青木 茂 野口悠紀雄	1987年5月	青木 茂 野口悠紀雄	1987年6月	青木 茂 野口悠紀雄	1987年7月	青木 茂 野口悠紀雄	1987年8月	青木 茂 野口悠紀雄	1987年9月	青木 茂 野口悠紀雄	1987年10月	青木 茂 野口悠紀雄	1987年11月	青木 茂 野口悠紀雄	1987年12月	青木 茂 野口悠紀雄	1988年1月	青木 茂 野口悠紀雄	1988年2月	青木 茂 野口悠紀雄	1988年3月	青木 茂 野口悠紀雄	1988年4月	青木 茂 野口悠紀雄	1988年5月	青木 茂 野口悠紀雄	1988年6月	青木 茂 野口悠紀雄	1988年7月	青木 茂 野口悠紀雄	1988年8月	青木 茂 野口悠紀雄	1988年9月	青木 茂 野口悠紀雄	1988年10月	青木 茂 野口悠紀雄	1988年11月	青木 茂 野口悠紀雄	1988年12月	青木 茂 野口悠紀雄	1989年1月	青木 茂 野口悠紀雄	1989年2月	青木 茂 野口悠紀雄	1989年3月	青木 茂 野口悠紀雄	1989年4月	青木 茂 野口悠紀雄	1989年5月	青木 茂 野口悠紀雄	1989年6月	青木 茂 野口悠紀雄	1989年7月	青木 茂 野口悠紀雄	1989年8月	青木 茂 野口悠紀雄	1989年9月	青木 茂 野口悠紀雄	1989年10月	青木 茂 野口悠紀雄	1989年11月	青木 茂 野口悠紀雄	1989年12月	青木 茂 野口悠紀雄	1990年1月	青木 茂 野口悠紀雄	1990年2月	青木 茂 野口悠紀雄	1990年3月	青木 茂 野口悠紀雄	1990年4月	青木 茂 野口悠紀雄	1990年5月	青木 茂 野口悠紀雄	1990年6月	青木 茂 野口悠紀雄	1990年7月	青木 茂 野口悠紀雄	1990年8月	青木 茂 野口悠紀雄	1990年9月	青木 茂 野口悠紀雄	1990年10月	青木 茂 野口悠紀雄	1990年11月	青木 茂 野口悠紀雄	1990年12月	青木 茂 野口悠紀雄	1991年1月	青木 茂 野口悠紀雄	1991年2月	青木 茂 野口悠紀雄	1991年3月	青木 茂 野口悠紀雄	1991年4月	青木 茂 野口悠紀雄	1991年5月	青木 茂 野口悠紀雄	1991年6月	青木 茂 野口悠紀雄	1991年7月	青木 茂 野口悠紀雄	1991年8月	青木 茂 野口悠紀雄	1991年9月	青木 茂 野口悠紀雄	1991年10月	青木 茂 野口悠紀雄	1991年11月	青木 茂 野口悠紀雄	1991年12月	青木 茂 野口悠紀雄	1992年1月	青木 茂 野口悠紀雄	1992年2月	青木 茂 野口悠紀雄	1992年3月	青木 茂 野口悠紀雄	1992年4月	青木 茂 野口悠紀雄	1992年5月	青木 茂 野口悠紀雄	1992年6月	青木 茂 野口悠紀雄	1992年7月	青木 茂 野口悠紀雄	1992年8月	青木 茂 野口悠紀雄	1992年9月	青木 茂 野口悠紀雄	1992年10月	青木 茂 野口悠紀雄	1992年11月	青木 茂 野口悠紀雄	1992年12月	青木 茂 野口悠紀雄	1993年1月	青木 茂 野口悠紀雄	1993年2月	青木 茂 野口悠紀雄	1993年3月	青木 茂 野口悠紀雄	1993年4月	青木 茂 野口悠紀雄	1993年5月	青木 茂 野口悠紀雄	1993年6月	青木 茂 野口悠紀雄	1993年7月	青木 茂 野口悠紀雄	1993年8月	青木 茂 野口悠紀雄	1993年9月	青木 茂 野口悠紀雄	1993年10月	青木 茂 野口悠紀雄	1993年11月	青木 茂 野口悠紀雄	1993年12月	青木 茂 野口悠紀雄	1994年1月	青木 茂 野口悠紀雄	1994年2月	青木 茂 野口悠紀雄	1994年3月	青木 茂 野口悠紀雄	1994年4月	青木 茂 野口悠紀雄	1994年5月	青木 茂 野口悠紀雄	1994年6月	青木 茂 野口悠紀雄	1994年7月	青木 茂 野口悠紀雄	1994年8月	青木 茂 野口悠紀雄	1994年9月	青木 茂 野口悠紀雄	1994年10月	青木 茂 野口悠紀雄	1994年11月	青木 茂 野口悠紀雄	1994年12月	青木 茂 野口悠紀雄	1995年1月	青木 茂 野口悠紀雄	1995年2月	青木 茂 野口悠紀雄	1995年3月	青木 茂 野口悠紀雄	1995年4月	青木 茂 野口悠紀雄	1995年5月	青木 茂 野口悠紀雄	1995年6月	青木 茂 野口悠紀雄	1995年7月	青木 茂 野口悠紀雄	1995年8月	青木 茂 野口悠紀雄	1995年9月	青木 茂 野口悠紀雄	1995年10月	青木 茂 野口悠紀雄	1995年11月	青木 茂 野口悠紀雄	1995年12月	青木 茂 野口悠紀雄	1996年1月	青木 茂 野口悠紀雄	1996年2月	青木 茂 野口悠紀雄	1996年3月	青木 茂 野口悠紀雄	1996年4月	青木 茂 野口悠紀雄	1996年5月	青木 茂 野口悠紀雄	1996年6月	青木 茂 野口悠紀雄	1996年7月	青木 茂 野口悠紀雄	1996年8月	青木 茂 野口悠紀雄	1996年9月	青木 茂 野口悠紀雄	1996年10月	青木 茂 野口悠紀雄	1996年11月	青木 茂 野口悠紀雄	1996年12月	青木 茂 野口悠紀雄	1997年1月	青木 茂 野口悠紀雄	1997年2月	青木 茂 野口悠紀雄	1997年3月	青木 茂 野口悠紀雄	1997年4月	青木 茂 野口悠紀雄	1997年5月	青木 茂 野口悠紀雄	1997年6月	青木 茂 野口悠紀雄	1997年7月	青木 茂 野口悠紀雄	1997年8月	青木 茂 野口悠紀雄	1997年9月	青木 茂 野口悠紀雄	1997年10月	青木 茂 野口悠紀雄	1997年11月	青木 茂 野口悠紀雄	1997年12月	青木 茂 野口悠紀雄	1998年1月	青木 茂 野口悠紀雄	1998年2月	青木 茂 野口悠紀雄	1998年3月	青木 茂 野口悠紀雄	1998年4月	青木 茂 野口悠紀雄	1998年5月	青木 茂 野口悠紀雄	1998年6月	青木 茂 野口悠紀雄	1998年7月	青木 茂 野口悠紀雄	1998年8月	青木 茂 野口悠紀雄	1998年9月	青木 茂 野口悠紀雄	1998年10月	青木 茂 野口悠紀雄	1998年11月	青木 茂 野口悠紀雄	1998年12月	青木 茂 野口悠紀雄	1999年1月	青木 茂 野口悠紀雄	1999年2月	青木 茂 野口悠紀雄	1999年3月	青木 茂 野口悠紀雄	1999年4月	青木 茂 野口悠紀雄	1999年5月	青木 茂 野口悠紀雄	1999年6月	青木 茂 野口悠紀雄	1999年7月	青木 茂 野口悠紀雄	1999年8月	青木 茂 野口悠紀雄	1999年9月	青木 茂 野口悠紀雄	1999年10月	青木 茂 野口悠紀雄	1999年11月	青木 茂 野口悠紀雄	1999年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2000年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2000年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2000年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2000年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2000年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2000年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2000年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2000年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2000年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2000年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2000年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2000年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2001年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2001年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2001年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2001年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2001年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2001年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2001年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2001年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2001年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2001年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2001年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2001年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2002年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2002年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2002年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2002年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2002年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2002年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2002年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2002年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2002年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2002年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2002年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2002年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2003年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2003年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2003年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2003年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2003年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2003年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2003年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2003年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2003年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2003年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2003年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2003年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2004年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2004年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2004年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2004年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2004年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2004年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2004年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2004年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2004年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2004年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2004年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2004年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2005年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2005年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2005年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2005年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2005年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2005年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2005年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2005年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2005年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2005年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2005年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2005年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2006年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2006年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2006年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2006年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2006年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2006年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2006年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2006年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2006年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2006年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2006年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2006年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2007年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2007年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2007年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2007年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2007年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2007年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2007年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2007年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2007年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2007年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2007年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2007年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2008年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2008年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2008年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2008年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2008年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2008年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2008年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2008年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2008年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2008年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2008年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2008年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2009年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2009年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2009年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2009年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2009年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2009年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2009年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2009年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2009年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2009年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2009年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2009年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2010年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2010年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2010年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2010年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2010年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2010年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2010年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2010年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2010年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2010年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2010年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2010年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2011年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2011年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2011年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2011年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2011年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2011年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2011年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2011年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2011年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2011年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2011年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2011年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2012年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2012年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2012年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2012年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2012年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2012年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2012年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2012年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2012年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2012年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2012年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2012年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2013年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2013年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2013年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2013年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2013年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2013年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2013年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2013年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2013年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2013年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2013年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2013年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2014年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2014年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2014年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2014年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2014年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2014年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2014年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2014年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2014年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2014年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2014年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2014年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2015年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2015年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2015年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2015年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2015年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2015年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2015年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2015年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2015年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2015年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2015年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2015年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2016年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2016年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2016年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2016年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2016年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2016年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2016年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2016年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2016年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2016年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2016年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2016年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2017年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2017年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2017年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2017年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2017年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2017年6月	青木 茂 野口悠紀雄	2017年7月	青木 茂 野口悠紀雄	2017年8月	青木 茂 野口悠紀雄	2017年9月	青木 茂 野口悠紀雄	2017年10月	青木 茂 野口悠紀雄	2017年11月	青木 茂 野口悠紀雄	2017年12月	青木 茂 野口悠紀雄	2018年1月	青木 茂 野口悠紀雄	2018年2月	青木 茂 野口悠紀雄	2018年3月	青木 茂 野口悠紀雄	2018年4月	青木 茂 野口悠紀雄	2018年5月	青木 茂 野口悠紀雄	2018年6月	青木 茂 野口
----------	------------------------	--	---------	-----------------	---------	---------------------------------	---------	-------	---------	-------------------------	---------	----------------	---------	-------------------------	---------	-------	---------	-------------------------	---------	-------	----------	-------	----------	-------	----------	-------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	----------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	---------------	---------	------------

1993年5月	「地方分権」が日本を変える ―知事が語る「政治改革」への戦略	長野 士郎 平松 守彦 伊豆見 元 川島 正英
6月	北朝鮮はどこへ行くか？ 日本は最悪のシナリオに備えよ	関川 夏央 伊豆見 元
7月	真の「政治改革」は摩擦を R・C・エンジェル解消する！ ―分水嶺に立った「外在依存国家」の命運	原 康 山口 二郎 岩見 隆夫
8月	「政治」はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ	岸本 重陳 早房 長治
9月	もはや「変革」のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文	立山 良司 池田 明史
10月	「九月十三日」から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路	J・ヴィンケル ヘーフェル
11月	「抑圧」から解かれ、いま溢れるチエコの経済力 何のための税調答申か？	八田 達夫 落合 博実
12月	税制改革の「歪み」を糾す 日本の「コメ」は救えるか？	森島 賢 唯是 康彦
1994年1月	―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言	平田 昌弘 高井 潔司
2月	ポスト鄧小平が「最大のハードル」になる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像	鴨 武彦 最上 敏樹
3月	日本は「国連中心主義」を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える	坂内富士男 池上 徹彦
4月	若者はほんとに「理工系離れ」なのか？ ―「科学の心」を摘まない環境づくりをめざして	G・S・ラクシマ 信彦
5月	日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウス の対日政策と決裂の深層	吉川 弘之 牛尾 治朗
6月	メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製 造業の再生ビジョン	永田町は「ジュラシック・パーク」？ ―日本の政治 構造は江戸幕府から変わっていない
7月	原 康	
1996年1月	科学技術は地球を救えるか？ ―21世紀の社会・環境・人口問題を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
2月	21世紀の米・中・日関係への視点 ―権力闘争はエリツインの強壮剤？ 税は「この国のかたち」	佐藤 嘉恭 田中 明彦 渡邊 幸治 林 義郎 竹中 平蔵
3月	「遺伝子組み換え食品」の光と影 ―日本の政治 二〇〇〇年問題 ―記者たちが読む「自公連立」の行方	近藤 康彦 本間 正義 倉重 美勝 中川内克行 由井 常彦
4月	科学技術は地球を救えるか？ ―21世紀の社会・環境・人口問題を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
5月	21世紀の米・中・日関係への視点 ―権力闘争はエリツインの強壮剤？ 税は「この国のかたち」	佐藤 嘉恭 田中 明彦 渡邊 幸治 林 義郎 竹中 平蔵
6月	権力闘争はエリツインの強壮剤？ 税は「この国のかたち」	佐藤 嘉恭 田中 明彦 渡邊 幸治 林 義郎 竹中 平蔵
7月	「遺伝子組み換え食品」の光と影 ―日本の政治 二〇〇〇年問題 ―記者たちが読む「自公連立」の行方	近藤 康彦 本間 正義 倉重 美勝 中川内克行 由井 常彦
8月	グローバリゼーションへの挑戦 ―「遺伝子組み換え食品」の光と影	近藤 康彦 本間 正義 倉重 美勝 中川内克行 由井 常彦
9月	「遺伝子組み換え食品」の光と影 ―日本の政治 二〇〇〇年問題 ―記者たちが読む「自公連立」の行方	近藤 康彦 本間 正義 倉重 美勝 中川内克行 由井 常彦
10月	日本の政治 二〇〇〇年問題 ―記者たちが読む「自公連立」の行方	近藤 康彦 本間 正義 倉重 美勝 中川内克行 由井 常彦
11月	江戸に学ぶ「経済再建プラン」 ―グローバリゼーション時代の日本型経営再考	中川内克行 由井 常彦
12月	中国報道の内幕 ―歴代北京特派員が見た素顔の五十年	釜井 卓三 山本 展男 伊藤 謙正
2000年1月	21世紀の日本の戦略 ―新たなメイド・イン・ジャパン神話を求めて	米本 昌平 A・パノフ
2月	駐日ロシア大使との対話 ―新大統領と日ロ関係のゆくえ	岡野加穂留 岡正 武重 北川 正恭 水木 楊
3月	「政治」はこれでよいのか？ ―巨大与党と野党不在の病理	尾本 恵市 小林 達雄 椎名 隼夫 岩見 隆夫 鈴木 典幸 安野 光雅
4月	「この国のかたち」の原点へ ―日本列島に人類が立った日	尾本 恵市 小林 達雄 椎名 隼夫 岩見 隆夫 鈴木 典幸 安野 光雅
5月	「秩父原人の驚くべき精神文化 ―いま問われるリーダーの資質	岩見 隆夫 鈴木 典幸 安野 光雅
6月	朝鮮半島が動いた！ ―55年目の南北首脳会談の意味	鈴木 典幸 安野 光雅
7月	「生きている力」って何だ ―ヒトゲノム解読後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	藤田統一郎 橋爪大三郎
8月	「生きている力」って何だ ―ヒトゲノム解読後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	藤田統一郎 橋爪大三郎
9月	「生きている力」って何だ ―ヒトゲノム解読後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	藤田統一郎 橋爪大三郎
10月	「生きている力」って何だ ―ヒトゲノム解読後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	藤田統一郎 橋爪大三郎
1997年11月	日ロ関係の「新たな方程式」K・O・サルキノフ	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	「朝鮮半島情勢」の新展開を読む	橋爪大三郎 米本 昌平
1998年1月	行革を超えて日本のビジョンを！ ―金融システム危機「への処方箋	橋爪大三郎 米本 昌平
2月	舵は逆に切られた ―金融システム危機「への処方箋	橋爪大三郎 米本 昌平
3月	春闘はグローバル・スタンダード！ ―アメリカ一極支配の幻想	橋爪大三郎 米本 昌平
4月	21世紀の日ロ関係への提言K・O・サルキノフ	橋爪大三郎 米本 昌平
5月	この五年間の政治は不毛だった ―連立政権の功罪と21世紀への提言	橋爪大三郎 米本 昌平
6月	21世紀の地球・人類・文明を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
7月	「人間圏」の行き着く先にあるもの	橋爪大三郎 米本 昌平
8月	現場記者が見た 小淵総裁誕生の舞台裏十五日間	橋爪大三郎 米本 昌平
9月	市場は中立公正な政治を求めている ―小淵内閣への期待と懸念	橋爪大三郎 米本 昌平
10月	社会保険制度を北欧に学ぶ ―「22世紀」を見据えたスウェーデン	橋爪大三郎 米本 昌平
11月	自治体の財政はなぜ破綻したか？ ―改革と再建への緊急処方箋	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	米国は「日本復活」を期待して ―日米関係のカギ握る経済政策	橋爪大三郎 米本 昌平
1999年1月	今そこにあるニーズを探れ！ ―初心を忘れた日本企業と「勝ち組の法則」	橋爪大三郎 米本 昌平
2月	21世紀日本の「柔らかな選択肢」 ―外交・安保・危機管理を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
3月	政治は日本経済を救えるか？ R・A・フェルドマン	橋爪大三郎 米本 昌平
4月	科学技術は地球を救えるか？ ―21世紀の社会・環境・人口問題を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
5月	21世紀の米・中・日関係への視点 ―権力闘争はエリツインの強壮剤？ 税は「この国のかたち」	橋爪大三郎 米本 昌平
6月	権力闘争はエリツインの強壮剤？ 税は「この国のかたち」	橋爪大三郎 米本 昌平
7月	「遺伝子組み換え食品」の光と影 ―日本の政治 二〇〇〇年問題 ―記者たちが読む「自公連立」の行方	橋爪大三郎 米本 昌平
8月	「この国のかたち」の原点へ ―日本列島に人類が立った日	橋爪大三郎 米本 昌平
9月	「秩父原人の驚くべき精神文化 ―いま問われるリーダーの資質	橋爪大三郎 米本 昌平
10月	朝鮮半島が動いた！ ―55年目の南北首脳会談の意味	橋爪大三郎 米本 昌平
11月	「生きている力」って何だ ―ヒトゲノム解読後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	「生きている力」って何だ ―ヒトゲノム解読後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	橋爪大三郎 米本 昌平
1995年1月	エリツインの歴史的使命は終わった？ ―ポスト鄧小平「の中国を読む	橋爪大三郎 米本 昌平
2月	「チベット問題」の知られざる「ベマ・ギャルポ深層」	橋爪大三郎 米本 昌平
3月	21世紀のグラント・ストラテジーを求めて ―宗教にアクセスする法を忘れた日本人	橋爪大三郎 米本 昌平
4月	「日本型雇用」は環境不適合！ ―「日本型雇用」の歴史的使命は終わった？	橋爪大三郎 米本 昌平
5月	「安定の条件と危機のシナリオ ―日本の安全保障政策の「盲点」 ―官僚思考が健全な外交・防衛論議を妨げている？	橋爪大三郎 米本 昌平
6月	「安定の条件と危機のシナリオ ―日本の安全保障政策の「盲点」 ―官僚思考が健全な外交・防衛論議を妨げている？	橋爪大三郎 米本 昌平
7月	「安定の条件と危機のシナリオ ―日本の安全保障政策の「盲点」 ―官僚思考が健全な外交・防衛論議を妨げている？	橋爪大三郎 米本 昌平
8月	「安定の条件と危機のシナリオ ―日本の安全保障政策の「盲点」 ―官僚思考が健全な外交・防衛論議を妨げている？	橋爪大三郎 米本 昌平
9月	「安定の条件と危機のシナリオ ―日本の安全保障政策の「盲点」 ―官僚思考が健全な外交・防衛論議を妨げている？	橋爪大三郎 米本 昌平
10月	「安定の条件と危機のシナリオ ―日本の安全保障政策の「盲点」 ―官僚思考が健全な外交・防衛論議を妨げている？	橋爪大三郎 米本 昌平
11月	「安定の条件と危機のシナリオ ―日本の安全保障政策の「盲点」 ―官僚思考が健全な外交・防衛論議を妨げている？	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	「安定の条件と危機のシナリオ ―日本の安全保障政策の「盲点」 ―官僚思考が健全な外交・防衛論議を妨げている？	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年1月	「住民投票」の深層にあるもの ―憲法施行五十年「日本の政治文化を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
2月	「住民投票」の深層にあるもの ―憲法施行五十年「日本の政治文化を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
3月	「住民投票」の深層にあるもの ―憲法施行五十年「日本の政治文化を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
4月	「住民投票」の深層にあるもの ―憲法施行五十年「日本の政治文化を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
5月	「住民投票」の深層にあるもの ―憲法施行五十年「日本の政治文化を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
6月	「住民投票」の深層にあるもの ―憲法施行五十年「日本の政治文化を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
7月	「住民投票」の深層にあるもの ―憲法施行五十年「日本の政治文化を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
8月	「住民投票」の深層にあるもの ―憲法施行五十年「日本の政治文化を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
9月	「住民投票」の深層にあるもの ―憲法施行五十年「日本の政治文化を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
10月	「住民投票」の深層にあるもの ―憲法施行五十年「日本の政治文化を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
11月	「住民投票」の深層にあるもの ―憲法施行五十年「日本の政治文化を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	「住民投票」の深層にあるもの ―憲法施行五十年「日本の政治文化を考える	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年11月	外交は内政である ―戦略なき日本の命運	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	「迷えるアメリカ」のゆくえ ―米大統領選と21世紀のアジアの安全保障	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年1月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
2月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
3月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
4月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
5月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
6月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
7月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
8月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
9月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
10月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
11月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年11月	外交は内政である ―戦略なき日本の命運	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	「迷えるアメリカ」のゆくえ ―米大統領選と21世紀のアジアの安全保障	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年1月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
2月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
3月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
4月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
5月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
6月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
7月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
8月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
9月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
10月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
11月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年11月	外交は内政である ―戦略なき日本の命運	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	「迷えるアメリカ」のゆくえ ―米大統領選と21世紀のアジアの安全保障	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年1月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
2月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
3月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
4月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
5月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
6月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
7月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
8月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
9月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
10月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
11月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年11月	外交は内政である ―戦略なき日本の命運	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	「迷えるアメリカ」のゆくえ ―米大統領選と21世紀のアジアの安全保障	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年1月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
2月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
3月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
4月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
5月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
6月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
7月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
8月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
9月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
10月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
11月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年11月	外交は内政である ―戦略なき日本の命運	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	「迷えるアメリカ」のゆくえ ―米大統領選と21世紀のアジアの安全保障	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年1月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
2月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
3月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
4月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
5月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
6月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
7月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
8月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
9月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
10月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
11月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年11月	外交は内政である ―戦略なき日本の命運	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	「迷えるアメリカ」のゆくえ ―米大統領選と21世紀のアジアの安全保障	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年1月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
2月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
3月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
4月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
5月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
6月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
7月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
8月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
9月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
10月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
11月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年11月	外交は内政である ―戦略なき日本の命運	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	「迷えるアメリカ」のゆくえ ―米大統領選と21世紀のアジアの安全保障	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年1月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
2月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
3月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
4月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
5月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
6月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
7月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
8月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
9月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
10月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
11月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年11月	外交は内政である ―戦略なき日本の命運	橋爪大三郎 米本 昌平
12月	「迷えるアメリカ」のゆくえ ―米大統領選と21世紀のアジアの安全保障	橋爪大三郎 米本 昌平
1997年1月	対中経済協力の光と影 ―ロボットの進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	橋爪大三郎

11月	海国なき海洋国日本 日本人船員減少と資源安	田岡俊次	2007年1月	生きる力と考える力 ―読書・家庭・学校 ヒトはなぜいじめるのか？	池田明史	2006年5月	改めてイラク戦争を考える	春名幹男	2002年4月	対ロシア外交の「ねじれ」 ―外務省の空白の10年を検証する	下斗米伸夫
10月	アフガニスタンは今？	伊勢崎賢治	2月	戦略なき日本は孤立する？ ―二〇二〇年の世界と東アジア 共同体	谷口誠一	6月	命の裁量 ―安楽死、事件を考える	宮田律	5月	「石油ショック」は再来するの か？ ―パレスチナ紛争と国際 エネルギー情勢	田岡俊次
9月	顔の見えない改造内閣 ―ねじれ国会の与野党攻防を読む	丸山昌宏	3月	「美しい国」の実像を問う ―「チーム安倍」の課題と戦略 北朝鮮の「核」を考える	坂田明恵	7月	①規制緩和で失われた公共性 ―理念なき改革の成果と混乱 ②「反射神経」から戦略思考へ ―小泉外交の「功罪」を超えて	橋爪大三郎	4月	長野で起きたことは国でも起 る ―不信任騒動と「康夫効果」 ―アメリカを「再格付け」する ―90年代型ビジネスモデルの 終焉	高橋和夫
8月	見えない和平 ―パレスチナ分断のゆくえ	高橋和夫	4月	なぜ「高」が日本を救う？ ブラジルは食糧危機を救うか？ 現代の海賊対策	山田祐一	10月	―武力攻撃は中東に何をたら すか？ ―イラク戦争後の国際秩序と日 本の選択	立山良司	3月	21世紀の「逃散」 ―北朝鮮はいまどうなっている か？	米原万里
7月	環境問題の真実と幻想	武田邦彦	5月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	11月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	2月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	星野博美
6月	加藤高明に学ぶ二大政党制への 道	北岡伸一	6月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	10月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	佐高信
5月	そして、誰もいなくなる？ ―「限界集落」の黙示録	大野智幸	7月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	9月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	田中秀征
4月	ほくらと地続きのインド	中島岳志	8月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	8月	長野で起きたことは国でも起 る ―不信任騒動と「康夫効果」 ―アメリカを「再格付け」する ―90年代型ビジネスモデルの 終焉	高成田享
3月	戦略なき日本は孤立する？ ―二〇二〇年の世界と東アジア 共同体	谷口誠一	9月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	7月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	山岡邦彦
2月	ヒトはなぜいじめるのか？	池田明史	10月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	6月	人脈だけ旅行靴に入れて ―変転する香港、逆戻りする中 国	伊豆見元
1月	生きる力と考える力 ―読書・家庭・学校 ヒトはなぜいじめるのか？	池田明史	11月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	5月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	高橋和夫
2006年5月	改めてイラク戦争を考える	春名幹男	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	4月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	米原万里
2003年1月	二〇〇三年 日本 の政治と経済 ―今年 はキナ臭い年になりそう だ	曾根泰教	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	3月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	星野博美
2月	日口関係の リ・ストラクチャ リング ―北朝鮮という K・O・サル キソフ	下斗米伸夫	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	2月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	田中秀征
3月	地方が 変わる・国が 変わる ―改革派知事 の限界と統一 地方	新藤宗幸	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	10月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	山岡邦彦
4月	イラク戦争の 「後遺症」 ―武力攻撃は 中東に何をたら すか？	立山良司	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	9月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	米原万里
5月	深慮なき ブッシュ外交 ―イラク戦争 後の国際秩序 と日本 の選択	五十嵐武士	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	8月	長野で起きたことは国でも起 る ―不信任騒動と「康夫効果」 ―アメリカを「再格付け」する ―90年代型ビジネスモデルの 終焉	高成田享
6月	世界を震撼 させたSARSの 「謎」 ―問われる 日本の感染症 対策	輿村康新	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	7月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	山岡邦彦
2009年1月	ローマ帝国 衰亡の教訓	小林慶一郎	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	6月	人脈だけ旅行靴に入れて ―変転する香港、逆戻りする中 国	伊豆見元
2月	全否定は世界 経済を閉塞さ せる	武者隼平	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	5月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	高橋和夫
3月	「CHANGE」 の行方	久保文明	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	4月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	米原万里
4月	イラン攻撃 はあるか？ ―イスラエル 新政権と中東 情勢	高橋和夫	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	3月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	星野博美
5月	「失われた 八年」を超え て	東郷和彦	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	2月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	田中秀征
6月	北方領土交 渉の潮目を読 む	横手慎二	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	10月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	山岡邦彦
7月	海洋開発は 日本のフロン ティアになる	高川真一	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	9月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	米原万里
8月	ドルVS人民 元!? ―米中G2時 代の幻想	山中哲生	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	8月	長野で起きたことは国でも起 る ―不信任騒動と「康夫効果」 ―アメリカを「再格付け」する ―90年代型ビジネスモデルの 終焉	高成田享
8月	米軍撤退後 のイラク情勢	酒井啓子	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	7月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	山岡邦彦
2008年1月	農業に見る 日本の病理	左巻健男	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	6月	人脈だけ旅行靴に入れて ―変転する香港、逆戻りする中 国	伊豆見元
2月	改めて師弟 関係を考える	神門善久	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	5月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	高橋和夫
3月	このままじゃ 間に合わない! ―新型インフ ルエンザH5N1 の足音	山折哲雄	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	4月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	米原万里
4月	中国十三億 人の内情 ―アフリカ・ チベット・北 京オリンピック	清水美和	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	3月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	星野博美
5月	排出量取引 の落とし穴	高原明生	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	2月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	田中秀征
6月	なぜアフリカ は貧しいまま なのか？	橋爪大三郎	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	10月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	山岡邦彦
7月	北朝鮮問題 の「解」	伊豆見元	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	9月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	米原万里
8月	国連活動へ の兵員派遣を 考える	川端清隆	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	8月	長野で起きたことは国でも起 る ―不信任騒動と「康夫効果」 ―アメリカを「再格付け」する ―90年代型ビジネスモデルの 終焉	高成田享
9月	「四高」が 日本を救う!?	三國陽夫	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	7月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	山岡邦彦
10月	ブラジルは 食糧危機を救 うか!?	西陽夫	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	6月	人脈だけ旅行靴に入れて ―変転する香港、逆戻りする中 国	伊豆見元
11月	現代の海賊 対策	小池和久	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	5月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	高橋和夫
12月	中国経済の 複合危機	興梠一郎	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	4月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	米原万里
2009年1月	ローマ帝国 衰亡の教訓	小林慶一郎	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	3月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	星野博美
2月	全否定は世界 経済を閉塞さ せる	武者隼平	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	2月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	田中秀征
3月	「CHANGE」 の行方	久保文明	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	10月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	山岡邦彦
4月	イラン攻撃 はあるか？ ―イスラエル 新政権と中東 情勢	高橋和夫	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	9月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	米原万里
5月	「失われた 八年」を超え て	東郷和彦	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	8月	長野で起きたことは国でも起 る ―不信任騒動と「康夫効果」 ―アメリカを「再格付け」する ―90年代型ビジネスモデルの 終焉	高成田享
6月	北方領土交 渉の潮目を読 む	横手慎二	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	7月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	山岡邦彦
7月	海洋開発は 日本のフロン ティアになる	高川真一	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	6月	人脈だけ旅行靴に入れて ―変転する香港、逆戻りする中 国	伊豆見元
8月	ドルVS人民 元!? ―米中G2時 代の幻想	山中哲生	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	5月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	高橋和夫
8月	米軍撤退後 のイラク情勢	酒井啓子	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	4月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	米原万里
2008年1月	農業に見る 日本の病理	左巻健男	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	3月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	星野博美
2月	改めて師弟 関係を考える	神門善久	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	2月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	田中秀征
3月	このままじゃ 間に合わない! ―新型インフ ルエンザH5N1 の足音	山折哲雄	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	10月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	山岡邦彦
4月	中国十三億 人の内情 ―アフリカ・ チベット・北 京オリンピック	清水美和	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月	―イラク戦争の「後遺症」 ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	宮田律	9月	―北朝鮮はいまどうなっている か？	米原万里
5月	排出量取引 の落とし穴	高原明生	12月	なぜアフリカは貧しいままなの か？ 北朝鮮問題の「解」 ―理系と価値の創造である ―「理系の経営学」から見た日 本の現状	山田祐一	12月</					

2011年6月	「非常時」の経済学 ―復興議論に冷静さを 転換点迎えた米国の中東政策	橋本 俊詔 飯田 泰之 久保 文恵 池内 恵 李 燦雨 三村 光弘 小川 和久 岸 博幸 山口 邦彦 山岡 陽夫 三國 陽夫 大崎 明子 細谷 雄一 中山 俊宏 鈴木 晋也 五味 洋治 李 相哲 小杉 泰 私市 正年 武者 陵司 若田部昌澄 阿古 智子 黒田 東彦 白石 隆 池田 明史 池内 恵史 待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 隆 阿部 俊哉 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真 奈良岡聰智 梅本 逸郎 中原 伸之 窪園 博俊
2012年1月	宇宙政策は国家の「名刺」	鈴木 晋也 中山 俊宏 細谷 雄一 大崎 明子 三國 陽夫 山口 邦彦 山岡 陽夫 三國 陽夫 大崎 明子 細谷 雄一 中山 俊宏 鈴木 晋也 五味 洋治 李 相哲 小杉 泰 私市 正年 武者 陵司 若田部昌澄 阿古 智子 黒田 東彦 白石 隆 池田 明史 池内 恵史 待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 隆 阿部 俊哉 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真 奈良岡聰智 梅本 逸郎 中原 伸之 窪園 博俊
2013年1月	東アジアの国際秩序 ―中国とどう向き合うべきか？ それでもEUは存続する	東アジアの国際秩序 ―中国とどう向き合うべきか？ それでもEUは存続する
2014年1月	なぜポイジーに パツハが積まれているのか？ 金正恩体制の本当の姿 それでもアメリカの成長は続く	なぜポイジーに パツハが積まれているのか？ 金正恩体制の本当の姿 それでもアメリカの成長は続く
2015年1月	人類七〇〇万年の道のり そして、ホモ・サピエンスだ 何が残った 中国経済の「新常态」を考える ―「アジアインフラ投資銀行」 創設の背景 ユーロリスクに潜む「ドイツ問題」 空き家問題が語り掛けている もの A I I Bとアメリカの対中政策 ―日本の感染症研究の実情 「爆食」中国と世界の食糧問題 BSL-4施設は国防である ―日本の感染症研究の実情 「爆食」中国と世界の食糧問題 原油価格「下落」の背景 ―イラン・IS・サウジアラビア イギリス経済のいまを検証する ―EUからの離脱はあり得る のか？ クリミア、シリア、北方領土 プーチン・ロシアの外交を読む 人工知能進化論 ディープラーニングが拓く新たな地平 政治の「再生産ストーリー」を 超えて いまのアメリカの文学から見る アメリカのいま サウジアラビアで何が起きている か 世界経済危機 中国ではなく足元を見よ トランプ現象の底流 「もう一つの選択肢」で揺らぐ ドイツ 食の安全とリスクを考える 英国のEU離脱と政治の劣化 政治はいま何を語るべきか	田中浩一郎 池内 恵 小金 芳弘 荳野 稔人 伊豆見 元 山岡 邦彦 水島 治郎 古賀 光生 細谷 雄一 池内 恵 鹿島 茂 山崎 亮 茅原 郁生 高原 明生 遠藤 一乾 鈴木 晋也 久保 文恵 小林慶一郎 佐治 晴夫 岡田 俊司 平岡 隆生 岩村 和哉 磐井 徹 美甘 哲秀 小峰 隆夫 若田部昌澄 廣瀬 陽子 畔蒜 泰助 中山 俊宏 牧原 出 倉本 憲一 小川 和久 岡田 暁生 奈良岡聰智 藤原 辰史 広瀬 崇子 伊藤 洋一 池内 恵 山形 浩生 白戸 圭一 荳野 稔人 久保 文恵 宮家 邦彦
2016年9月	3万年前の航海を再現 ヒトは日本列島にどうやって 来たか 独裁国家の仕組み	海部 陽介 関野 吉晴 武内 宏樹 池内 健太 青木 亮平 笠井 直人 鶴見 直人 長谷 直哉 吉川 洋 飯田 泰之 西川 賢 古賀 光生 川島 真 佐橋 亮 上 昌広 川 孝一
2017年1月	分断される社会と世界のゆくえ	分断される社会と世界のゆくえ
2018年1月	明治維新はどのように日本社会 を変えたのか？ 日本人は憲法をどう見てきたか？	明治維新はどのように日本社会 を変えたのか？ 日本人は憲法をどう見てきたか？
2019年1月	中国「デジタル・イノベーション」の威力 ―トリのさえずりとテナガザルのソプラノ ロシアの「北極圏開発」戦略 セルゲイ・ロギンコ ユーリー・シエルバニン コンスタンチン・シモノフ	中国「デジタル・イノベーション」の威力 ―トリのさえずりとテナガザルのソプラノ ロシアの「北極圏開発」戦略 セルゲイ・ロギンコ ユーリー・シエルバニン コンスタンチン・シモノフ
2020年1月	人類学が迫る 日本人の起源 ①「ポスト安倍」の条件 ―強い首相の時代は続くのか ②米イラン危機から見えてきた 新しい戦争のかたち 「毒」から考える歴史・進化・ 新薬 新型コロナウィルス危機と 米大統領選挙・世界秩序の行方 氷河期世代×起業×地方 イタリアから考える民主主義の 次の姿 コロナ禍で問い直される 「国家」と「個人」 戦後75年の日本外交を振り返る あらためて平成の政治改革を 考える	人類学が迫る 日本人の起源 ①「ポスト安倍」の条件 ―強い首相の時代は続くのか ②米イラン危機から見えてきた 新しい戦争のかたち 「毒」から考える歴史・進化・ 新薬 新型コロナウィルス危機と 米大統領選挙・世界秩序の行方 氷河期世代×起業×地方 イタリアから考える民主主義の 次の姿 コロナ禍で問い直される 「国家」と「個人」 戦後75年の日本外交を振り返る あらためて平成の政治改革を 考える
2021年1月	新型コロナ対応で自治体の 危機管理はどう機能したか 2020年代の日本の エネルギー政策を考える アメリカの国際主義の行方と 日本の立ち位置 「人間中心のデジタル社会」 コロナ禍で考えるエビデンス に基づいた政策立案 「コロナの時代」における 私たちの生き方 1968年生まれ女性研究者 が語るジェンダー ―フエアで自由な社会の実現 にむけて 九州から考える 弥生時代の 始まりと日本語の成り立ち 東南アジアのジレンマ ―米中の狭間で高まる日本へ の期待 コロナ危機が浮き彫りにした 日本の統治構造とその弱点	新型コロナ対応で自治体の 危機管理はどう機能したか 2020年代の日本の エネルギー政策を考える アメリカの国際主義の行方と 日本の立ち位置 「人間中心のデジタル社会」 コロナ禍で考えるエビデンス に基づいた政策立案 「コロナの時代」における 私たちの生き方 1968年生まれ女性研究者 が語るジェンダー ―フエアで自由な社会の実現 にむけて 九州から考える 弥生時代の 始まりと日本語の成り立ち 東南アジアのジレンマ ―米中の狭間で高まる日本へ の期待 コロナ危機が浮き彫りにした 日本の統治構造とその弱点

2021年	2022年
8月	1月
9月	2月
10月	3月
11月	4月
12月	5月
	6月
	7月
	8月
	9月
	10月
	11月
	12月
	12月
	年の世界

日本の農地土壌を考える	カーボンニュートラル論争 何がエネルギー政策の潮流をつくるのか?	2021年 安岡 澄人
GAF A時代のメディアとジャーナリズムの現在地点 抑止力とは何か?	「再イデオロギー化」する日本 政治	2021年 松永 和紀
死から考える私たちの未来 「好奇心を失いつつある日本人へ 次の超大国インドから見る世界 秩序	「レームダック化」不可避のバイ デン政権と日本の役割 「プーチンの戦争」が揺らした 世界の秩序	2021年 穴山 梯三
人との結びつきはどうあるべきか —日本社会を緩めるヒント ジエネラリスト・北陸・エネ ルギー安保	日本が活力を取り戻すためのヒ ント 持たざる国の戦略—日本のエ ネルギー政策100年を辿る	2021年 大場 紀章
ウクライナ戦争の戦況取 集から考える「情報」の本質 降りられる社会・降りられない 社会	—今の日本を生きる個人の変化から 今が最大で最後のチャンス	2021年 山形 浩生
覚悟を決めた日本の半導体戦略 安倍政治の外交・安全保障を ふり返る	—7年8カ月の歴史的意義 コロナ禍で考える飲酒とコミュ ニケーション	2021年 林 香里
エルサレムで振り返る2022 年の世界		2021年 本間 圭一
		2021年 高見澤 将林
		2021年 村野 将
		2021年 古賀 攻
		2021年 境家 史郎
		2021年 小林 武彦
		2021年 茂木健一郎
		2021年 伊藤 融
		2021年 榎本 裕洋
		2021年 田中洋二郎
		2021年 中林美恵子
		2021年 渡部 恒雄
		2021年 鈴木 一人
		2021年 細谷 雄一
		2021年 奈良岡聰智
		2021年 小泉 悠
		2021年 松沢 裕作
		2021年 小川さやか
		2021年 滝波 宏文
		2021年 吉崎 達彦
		2021年 十市 勉
		2021年 岩瀬 昇
		2021年 渡邊 英徳
		2021年 高橋 杉雄
		2021年 清水唯一朗
		2021年 富永 京子
		2021年 西川 和見
		2021年 黒田 忠広
		2021年 小野寺五典
		2021年 高見澤 将林
		2021年 奈良岡聰智
		2021年 谷口 功一
		2021年 飯田 泰之
		2021年 岩間 陽子
		2021年 池内 恵